

# シラバス(授業計画)

SYLLABUS

令和5年度



関西看護医療大学大学院  
看護学研究科

# 目 次

■カリキュラム表 .....	1
----------------	---

## ■シラバス

### 共通専門科目

看護理論 .....	6
研究方法論 .....	7
看護診断学 .....	8
看護教育論 .....	9
看護管理学 .....	10
看護政策論 .....	11
コンサルテーション論 .....	12

### 共通基礎科目

倫理学 .....	13
社会学 .....	14
臨床心理学 .....	15
保健統計学 .....	16

### 専門科目

#### 慢性看護学分野

慢性看護学特論Ⅰ .....	17
慢性看護学特論Ⅱ .....	18
慢性看護学演習Ⅰ .....	19
慢性看護学演習Ⅱ .....	20
慢性看護学セミナー .....	21
慢性看護学実習 .....	22

#### 地域看護学分野

地域看護学特論Ⅰ .....	23
地域看護学特論Ⅱ .....	24
地域看護学演習Ⅰ .....	25
地域看護学演習Ⅱ .....	26
地域看護学セミナー .....	27
地域看護学実習 .....	28

## 母性看護・助産学分野

母性看護・助産学特論Ⅰ	29
母性看護・助産学特論Ⅱ	30
母性看護・助産学演習Ⅰ	31
母性看護・助産学演習Ⅱ	32
母性看護・助産学セミナー	33
母性看護・助産学実習	34

## 高度実践助産師養成コース

生殖機能論	35
助産学概論	36
助産文化・国際論	37
助産教育論	38
母子家族論	39
母子保健行政論	40
助産診断・技術学特論Ⅰ(妊娠期)	41
助産診断・技術学演習Ⅰ(妊娠期)	42
助産診断・技術学特論Ⅱ(分娩期)	43
助産診断・技術学演習Ⅱ(分娩期)	44
助産診断・技術学特論Ⅲ(産褥期・育児支援)	45
助産診断・技術学演習Ⅲ(産褥期・育児支援)	47
地域母子保健	48
助産管理	50
助産学実習	51
助産管理実習	53
看護学特別研究	54



関西看護医療大学大学院カリキュラム

(平成29年～令和3年度生)

(看護学研究科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		卒業要件	年次配当				
			必修	選択		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	
共通専門科目	看護理論	1通	○		必修6単位	2				
	研究方法論	1前	○			2				
	看護診断学	1通	○			2				
	看護教育論	1通		○		2				
	看護管理学	1通		○		2				
	看護政策論	1通		○		2				
	コンサルテーション論	1通		○		2				
基礎科目	倫理学	1通		○	選択4単位	2				
	社会学	1通		○		2				
	臨床心理学	1通		○		2				
	保健統計学	* 1通		○		2				
小計(共通科目)						2	20	0	0	
専門科目	慢性看護学分野	慢性看護学特論Ⅰ	1通	○	必修14単位 + 選択4単位 ※慢性分野	2				
		慢性看護学特論Ⅱ	1通	○		2				
		慢性看護学演習Ⅰ	1通	○		2				
		慢性看護学演習Ⅱ	1・2通	○			4			
		慢性看護学セミナー	1・2通	○			4			
		慢性看護学実習	☆ 1・2通			○	4			
	計						0	6	0	12
	地域看護学分野	地域看護学特論Ⅰ	1通	○	必修14単位 + 選択4単位 ※地域分野	2				
		地域看護学特論Ⅱ	1通	○		2				
		地域看護学演習Ⅰ	1通	○		2				
		地域看護学演習Ⅱ	1・2通	○			4			
		地域看護学セミナー	1・2通	○			4			
		地域看護学実習	☆ 1・2通			○	4			
	計						0	6	0	12
母性看護・助産学分野	母性看護・助産学	母性看護・助産学特論Ⅰ	1・2通	○	必修14単位 + 選択4単位 ※母性助産分野	2				
		母性看護・助産学特論Ⅱ	1・2通	○		2				
		母性看護・助産学演習Ⅰ	1・2通	○		2				
		母性看護・助産学演習Ⅱ	1・2通	○		4				
		母性看護・助産学セミナー	1・2通	○		4				
		母性看護・助産学実習	☆ 1・2通			○	4			
	高度実践看護職業養成コース	生殖機能論	★ 1前	○	必修10単位 ※母性助産分野	1				
		助産学概論	★ 1前	○		1				
		助産文化・国際論	★ 1通	○		1				
		助産教育論	★ 1前	○		1				
母子家族論	★ 1前	○	1							
母子保健行政論	★ 1前	○	1							
助産診断・技術学特論Ⅰ(妊娠期)	★ 1前	○	1							
助産診断・技術学演習Ⅰ(妊娠期)	★ 1前	○	2							
助産診断・技術学特論Ⅱ(分娩期)	★ 1通	○	1							
計						8	2	0	18	
母性看護・助産学特別研究	高度実践看護職業養成コース	助産診断・技術学演習Ⅱ(分娩期)	★ 1通	○	必修18単位 ※母性助産分野	2				
		助産診断・技術学特論Ⅲ(産褥期・育児支援)	★ 1通	○		1				
		助産診断・技術学演習Ⅲ(産褥期・育児支援)	★ 1通	○		1				
		地域母子保健診断	★ 1・2通	○			1			
		助産管理	★ 1・2通	○			1			
		助産学実習	★ 1・2通	○			11			
		助産管理実習	★ 2通	○					1	
		計						0	4	0
看護学特別研究						必修6単位				
小計(専門科目)						8	18	0	56	
合計(46科目)						10	38	0	62	

学位又は称号	修士(看護学)
学位又は学科の分野	保健衛生学

### 大学院看護学研究科修了要件

修士(看護学)課程修了に必要な修得単位は30単位以上とする。

各分野とも共通専門科目の必修6単位、共通専門科目と共通基礎科目の選択から4単位以上の計10単位以上を修得するとともに、選択した専門分野に応じて、それぞれの専門分野の特論4単位、演習6単位、セミナー4単位、看護学特別研究6単位の計20単位を修得する。

また、教育者・研究者コースを選択した者においては、共通基礎科目にある「保健統計学(\*) 2単位」を必修選択する。高度専門看護職養成コースを選択した者(\*助産師国家試験資格修得コースは除く)においては、各専門分野の「実習(☆) 4単位」を30単位に加えて必修選択する。

母性看護・助産学分野の高度実践看護職養成コースのうち助産師国家試験資格取得コースを選択した者においては、修了に必要な30単位以上と「助産師国家試験資格取得科目(★)」の計28単位を加えて計58単位以上を修得する。

1学年の学期区分	2期
1学期の授業期間	15週
1時限の授業時間	90分

関西看護医療大学大学院カリキュラム

(令和4年度生)

(看護学研究科)

区分	科目名	単位数	時間	履修要件	卒業要件	年次配当				
						1前	1後	2前	2後	
共通専門科目	看護理論	2	30		必修6単位+ 選択4単位	◎				
	研究方法論	2	30			◎				
	看護診断学	2	30			◎				
	看護教育論	2	30			○				
	看護管理学	2	30			○				
	看護政策論	2	30			○				
	コンサルテーション論	2	30			○				
共通目基礎	倫理学	2	30			○				
	社会学	2	30			○				
	臨床心理学	2	30			○				
	保健統計学	2	30	*		○				
小計						2	20	0	0	
慢性看護学分野	慢性看護学特論Ⅰ	2	30			必修14単位	◎			
	慢性看護学特論Ⅱ	2	30				◎			
	慢性看護学演習Ⅰ	2	60		◎					
	慢性看護学演習Ⅱ	4	120				◎			
	慢性看護学セミナー	4	120				◎			
	慢性看護学実習	4	120	☆			○			
	小計						0	6	0	12
地域看護学分野	地域看護学特論Ⅰ	2	30		必修14単位	◎				
	地域看護学特論Ⅱ	2	30			◎				
	地域看護学演習Ⅰ	2	60			◎				
	地域看護学演習Ⅱ	4	120				◎			
	地域看護学セミナー	4	120				◎			
	地域看護学実習	4	120	☆			○			
小計						0	6	0	12	
母性看護・助産学分野	母性看護・助産学特論Ⅰ	2	30		必修14単位		◎			
	母性看護・助産学特論Ⅱ	2	30				◎			
	母性看護・助産学演習Ⅰ	2	60				◎			
	母性看護・助産学演習Ⅱ	4	120				◎			
	母性看護・助産学セミナー	4	120				◎			
	母性看護・助産学実習	4	120	☆			○			
	小計						0	0	0	18
母性看護・助産学分野	生殖機能論	1	15	★	必修32単位	◎				
	助産学概論	1	15	★		◎				
	助産文化・国際論	1	15	★		◎				
	助産教育論	1	15	★		◎				
	母子家族論	1	15	★		◎				
	母子保健行政論	1	15	★		◎				
	助産診断・技術学特論Ⅰ(妊娠期)	1	30	★		◎				
	助産診断・技術学演習Ⅰ(妊娠期)	2	60	★		◎				
	助産診断・技術学特論Ⅱ(分娩期)	1	30	★		◎				
	助産診断・技術学演習Ⅱ(分娩期)	2	60	★		◎				
	助産診断・技術学特論Ⅲ(産褥期・育児支援)	2	30	★		◎				
	助産診断・技術学演習Ⅲ(産褥期・育児支援)	2	60	★		◎				
	地域母子保健	2	30	★			◎			
	助産管理	2	30	★			◎			
	助産学実習	11	495	★			◎			
	助産管理実習	1	45						◎	
	小計						0	16	0	16
看護学特別研究	6	180			必修6単位		◎			
小計						0	0	0	6	
セメスター別配当単位数計						2	48	0	64	

◎..必修科目、○..選択科目

\*..必修選択科目(教育者・研究者コース選択者)

☆..必修選択(高度専門看護職コース選択者 \*助産師国家試験資格取得コースは除く)

★..母性看護・助産学分野 高度専門看護職養成コースのうち助産師国家試験資格取得コース選択者 修得科目

学位又は称号	修士(看護学)
学位又は学科の分野	保健衛生学

### 大学院看護学研究科修了要件

修士(看護学)課程修了に必要な修得単位は30単位以上とする。

各分野とも共通専門科目の必修6単位、共通専門科目と共通基礎科目の選択から4単位以上の計10単位以上を修得するとともに、選択した専門分野に応じて、それぞれの専門分野の特論4単位、演習6単位、セミナー4単位、看護学特別研究6単位の計20単位を修得する。

また、教育者・研究者コースを選択した者においては、共通基礎科目にある「保健統計学(\*)2単位」を必修選択する。高度専門看護職養成コースを選択した者(\*助産師国家試験資格取得コースは除く)においては、各専門分野の「実習(☆)4単位」を30単位に加えて必修選択する。

母性看護・助産学分野の高度実践看護職養成コースのうち助産師国家試験資格取得コースを選択した者においては、修了に必要な30単位以上と「助産師国家試験資格取得科目(★)31単位」および本学が必要と認める「助産管理実習1単位」の計32単位を加えて合計62単位以上を修得する。

1学年の学期区分	2期
1学期の授業期間	15週
1時限の授業時間	90分





授業科目名	看護理論				
担当教員	◎小平 京子、江川 隆子				
履修学年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	2単位・30時間	授業形態	講義
授業の目標	看護学の哲学・倫理・教育・実践の基礎となる看護理論の分析と背景理論について探求する。さらに看護介入等に関する諸理論について研究論文を通して探求する。				
授業回数	授業の内容				
第1回	看護理論の意義と歴史の変遷				
第2回	看護理論の構造、構成要素および概念				
第3回	主な看護理論家の理論と理論分析の視点				
第4回	理論分析の例(ナイチンゲール看護論およびオレムセルフケア不足理論について)				
第5回	学生が選択した論文のプレゼンテーション① 同上②				
第6回	疾病予防行動や健康行動、慢性疾患患者の自己管理行動、ケア技術に関わる中範囲理論				
第7回	中範囲理論および中範囲理論を活用した研究論文の講読① 同上②				
第8回	同上③				
第9回	同上④				
第10回	学生が選択した中範囲理論についての解説・適応例についてのプレゼンテーション①				
第11回	同上②				
第12回	同上③ 同上④				
第13回					
第14回					
第15回					
学習評価の方法(成績割合%)	課題レポート(看護論、中範囲理論)60%、プレゼンテーションの内容等40%				
テキスト	「看護理論家とその業績」著：アン・マリナー・トメイ, マーサ・レイラ・アリグット(2002) / 都留伸子 監訳(2004) 医学書院 第3版 「中範囲理論を实践に活用する 看護技術 1～12」著 江川隆子(2014) 他メヂカルフレンド社				
履修上の留意点	論文講読と選択した論文のプレゼンテーションを行う。 発表内容のハンドアウトを参加人数分準備する。課題レポートを作成する。 レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。				
実務経験のある教員	教員①小平 京子、教員②江川 隆子				
備考	他に必要な文献はその都度提示する				

授業科目名	研究方法論				
担当教員	◎小平 京子、興津 文子、神谷 千鶴				
履修学年	1年（通年）				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	2単位・30時間	授業形態	講義
授業の目標	人間の健康に関する課題を科学的・体系的に解明するための看護研究方法論について探求する。看護研究の意義、研究目的の明確化、方法論の選定、計画の立案、実施方法、結果の分析、考察に至る研究プロセスについて研究論文を通して探求する。また、臨床研究についても探求する。さらに、学生が選択した看護学分野における研究課題を明らかにし、研究計画書を立案するための方法を研究論文のレビューを通して探求する。				
授業回数	授業の内容				
第1回	看護における研究の意義と実践への応用				
第2回	臨床疑問を研究疑問にするには				
第3回	研究のプロセスと研究デザイン(量的研究・質的研究)・研究における文献検討の意義・研究倫理				
第4回	量的研究とは：その特性と研究対象				
第5回	調査研究・実験研究・介入研究				
第6回	標本抽出と方法論（測定概念と方略）				
第7回	データ分析方法				
第8回	結果の分析・解釈方法と論文作成 ①論文のクリティークと活用（サブストラクション）				
第9回	②同上				
第10回	質的研究とは：その特性と研究対象				
第11回	研究プロセスと倫理的問題				
第12回	データ収集：面接と参加観察法 他				
第13回	①質的研究の方法 (記述民俗学・グランデッドセオリー・現象学・アクションリサーチ 等)				
第14回	②データ分析方法と論文作成、真実性・確実性の確保				
第15回	質的研究論文のクリティーク 研究疑問のプレゼンテーション				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート（クリティーク）60%、プレゼンテーションの内容等40%				
テキスト	「看護研究 原理と方法」 著：D.F. ポーリット,C.T. ベック（2004）／近藤潤子 監訳（2010）（医学書院）第2版 「ナースのための質的研究入門」 著：ホロウェイ,ウィラー（2002）／野口美和子 監訳（2006）（医学書院） 「看護研究 系統看護学講座 別巻」 著：坂下 玲子 他（2021）（医学書院）				
履修上の留意点	受講に当たっては参考文献を熟読し、不明な点を明らかにしておく。各学生の研究課題に係る論文を選択し、論文の研究課題に関するクリティークとその内容のハンドアウトを参加人数分準備する。				
実務経験のある教員	教員①小平 京子、教員②興津 文子、教員③神谷 千鶴				
備考	他に必要な文献はその都度提示する				

授業科目名	看護診断学				
担当教員	◎江川 隆子、笠岡 和子、神谷 千鶴				
履修学年	1年（通年）				
必修・選択の別	必須	単位数・時間	2単位・30時間	授業形態	講義
授業の目標	高度先進医療および在宅医療における患者の看護上の問題を含め、看護診断の開発について文献を通して探究する。さらに、各々の研究における「概念」について、文献を通して探究し、概念分析の論文を作成する。				
授業回数	授業の内容				
第1回	以下の内容について、文献レビューおよびディスカッションを通して学ぶ。				
第2回	①各看護領域におけるクライアントの身体・心理・社会的な看護診断とその背景理論				
第3回	②看護診断とその介入方法論について				
第4回	①各々の看護研究の臨床疑問および研究疑問を確認し、研究のキー概念を明確にする				
第5回	②同上				
第6回	③同上				
第7回	④同上				
第8回	①研究のキー概念およびその介入方法について文献を用いて検討し、概念分析する				
第9回	②同上				
第10回	③同上				
第11回	④同上				
第12回	①研究のキー概念、および介入について概念分析として論文にまとめる				
第13回	②同上				
第14回	③同上				
第15回	④同上				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
テキスト	「NANDA-I 看護診断 定義と分類」 著：日本看護診断学会監訳（2012）（医学書院） 「看護における理論構築の方法」 著：中木高夫、川崎修一 訳（2008）（医学書院）				
履修上の留意点	論文講読と選択した論文のプレゼンテーションを行う。発表内容の発表内容のハンドアウトを参加者文準備する。課題レポート（概念分析）を作成する。				
実務経験のある教員	教員①江川 隆子、教員②笠岡 和子、教員③神谷 千鶴				
備考					

授業科目名	看護教育論				
担当教員	◎奥津 文子				
履修学年	1年(通年)				
必修・選択の別	選択	単位数・時間	2単位・30時間	授業形態	講義
授業の目標	<p>看護教育制度と看護教育課程の変遷、看護カリキュラムの作成過程における教員の役割を学び、現行の看護教育の問題や今後の課題について検討する。その上で、教授・学習過程における基本的な学習理論、教育指導の方策、教育評価の基礎的知識を修得する。また、クライアント及び家族に対する教育指導法に関する理論を学習した上で、慢性疾患患者や高齢者らの問題を解決するための、介入指導計画の立案から評価にいたるプロセスを展開する。臨床のケアチームが効率的に機能するためのリーダーシップ理論やマネジメント理論を学習し、チームリーダーや臨床実習指導者としての役割について探求する。特に臨床における教育については、臨床教育の実践者より修得する。</p>				
授業回数	授業の内容				
第1回	以下の内容について、文献レビューおよびディスカッションを通して学ぶ。				
第2回	①各看護領域におけるクライアントの身体・心理・社会的な看護診断とその背景理論				
第3回	②看護診断とその介入方法論について				
第4回	①各々の看護研究の臨床疑問および研究疑問を確認し、研究のキー概念を明確にする				
第5回	②同上				
第6回	③同上				
第7回	④同上				
第8回	①研究のキー概念およびその介入方法について文献を用いて検討し、概念分析する				
第9回	②同上				
第10回	③同上				
第11回	④同上				
第12回	①研究のキー概念、および介入について概念分析として論文にまとめる				
第13回	②同上				
第14回	③同上				
第15回	④同上				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
テキスト					
履修上の留意点	論文講読と選択した論文のプレゼンテーションを行う。発表内容の発表内容のハンドアウトを参加者文準備する。課題レポートを作成する。				
実務経験のある 教員	教員①奥津 文子				
備考	必要な文献はその都度提示する				

授 業 科 目 名	看護管理学				
担 当 教 員	◎箕浦 洋子				
履 修 学 年	1年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2単位・30時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	看護管理に関する基本的な理論を学習し、看護管理の可能性と展望について理解を深める。また、看護実践、看護管理、看護研究の連携の重要性を理解し、実践場面を捉えて変革につながる戦略的思考について研究論文や実践事例を通して探究する。				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	看護管理学概論				
第 2 回	ヘルスケアシステム論：社会保障制度の現状と課題				
第 3 回	組織管理論：組織行動と組織分化				
第 4 回	組織管理論：組織行動と組織分化				
第 5 回	組織管理論：看護管理における倫理課題とその対応				
第 6 回	課題のプレゼンテーションとディスカッション				
第 7 回	人材管理：キャリア開発の現状と課題				
第 8 回	人材管理：多職種チームのマネジメント				
第 9 回	人材管理：人事・労務管理の課題とその対応				
第 10 回	質管理：看護サービスの質保証				
第 11 回	質管理：安全管理				
第 12 回	課題のプレゼンテーションとディスカッション				
第 13 回	資源管理：医療資源の管理				
第 14 回	資源管理：看護管理における情報管理				
第 15 回	総合プレゼンテーションとディスカッション				
学習評価の方法 (成績割合%)	レポート（60%）、プレゼンテーションの内容等（40%）				
テ キ ス ト					
履修上の留意点	論文、事例等などを用いて、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 授業への積極的な参加を重視する。				
実務経験のある 教 員					
備 考	必要なテキストや文献等は、その都度指示をする。				

授 業 科 目 名	看護政策論				
担 当 教 員	◎ 伊木 智子、高鳥毛 敏雄、川崎 裕美				
履 修 学 年	1年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2単位・30時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	日本および欧米における看護を取り巻く医療政策の変遷と現状を分析し、政策決定過程で活用される理論やモデルを修得する。また看護に係る政策改変および決定過程への介入の必要性とその方法を探求する。日本と欧米における看護を取り巻く医療政策の変遷と現状については、医療政策の専門家より修得する。				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	看護を取り巻く医療政策の変遷と現状分析				
第 2～5 回	日本および欧米における医療政策や医療制度の変遷				
第 6～8 回	都道府県行政における医療及び看護政策の現状と課題				
第 9～12 回	政策決定プロセスの事例検討を通して、看護政策立案に必要なリファレンス能力、エビデンスの活用法およびマネジメント力、活用のための手法と評価法				
第 13～15 回	政策決定とその活用に係る理論や理論策定過程、およびその評価とまとめ				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
テ キ ス ト	その都度提示する				
履修上の留意点	論文講読と講義内容に関するディスカッションを行う。 それらの結果を課題レポートにまとめる				
実務経験のある 教 員	伊木 智子（保健師）、高取毛 敏雄（公衆衛生学専門家） 川崎 裕美（保健師、公衆衛生看護学専門家）				
備 考	必要な文献はその都度提示する				

授 業 科 目 名	コンサルテーション論				
担 当 教 員	◎ 菅 佐和子、大北 正三				
履 修 学 年	1年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2単位・30時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	<p>コンサルテーションの基本概念をふまえながら、高度専門看護職としてコンサルテーションを実践するために必要な理論および役割機能を学習し、事例分析を通してコンサルタントとしての実践能力を修得する。また、組織におけるコンサルテーションの現状と課題を、研究論文を通して探求する。コンサルテーションの現状と課題については、専門看護師（精神リエゾン看護師）の役割と機能についての事例分析と研究論文の検討を通して探求する。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 ～ 2 回	コンサルテーションの基本的概念および定義、タイプとモデル等の基礎的理論を学ぶ。				
第 3 ～ 4 回	コンサルテーションの基本となる事例理解を深める①				
第 5 ～ 6 回	コンサルテーションに不可欠なコミュニケーション能力と介入技法を磨く…ロールプレイの試み				
第 7 ～ 8 回	コンサルテーションの基本となる事例理解を深める②				
第 9 ～ 10 回	模擬事例を対象にコンサルテーションの方針を立て、介入の方法を提案する。				
第 11 ～ 15 回	コンサルテーションにおける精神リエゾン看護師の役割と機能を事例分析と研究論文の検討を通して探求する。				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
テ キ ス ト					
履修上の留意点	論文講読と講義内容に関するディスカッションを行う。 それらの結果を課題レポートにまとめる。				
実務経験のある 教 員					
備 考	必要な文献はその都度提示する。				



授 業 科 目 名	倫理学				
担 当 教 員	◎ 山本 道雄、梶山 紀子				
履 修 学 年	1年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2単位・30時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	看護倫理の大前提である現代バイオエシックスの成立背景とその基本的思考を講義する。さらに主要な規範倫理思想の幾つかについて、現代バイオエシックスとの関わりを念頭におきながら、歴史のおよび理論的考察をする。				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1～ 5 回	現代バイオエシックスの成立をニュルンベルク綱領から「医療倫理の4原則」成立までたどる。				
第 6～ 10 回	現代バイオエシックスと規範倫理学諸学説について				
第 11～ 15 回	臨床看護における倫理的課題や倫理的判断について、事前に提出された事例を通して分析考察する。患者と家族に寄り添い看護を主体的に実践する中で、看護管理者としての倫理的判断と部下の倫理観の育成についても考察する。				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート100%（山本） 事例の分析と考察、討議と参考文献の活用等により、明確になった課題（梶山）				
テ キ ス ト					
履修上の留意点	講義主体とする。（山本） 事例に基づき参考文献等を活用して討議し考察を深める。（梶山）				
実務経験のある 教 員					
備 考	必要な文献はその都度提示する。				

授 業 科 目 名	社会学				
担 当 教 員	◎ 西村 由実子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義
授 業 の 目 標	デュルケム、マックス・ウェーバー、パーソンズなどの古典的な社会学の諸理論と社会調査法の基礎を学んだ上で、「医療社会学」の歴史的展開を鑑み、保健医療分野における、医療化、病人役割、病気行動、医療者－患者関係などについて理解する。さらに、家族と国際社会における諸課題を取り上げ、保健医療に関連する多様な課題を探究するための社会学的素養を身につける。				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	ガイダンス／パラグラフ・ライティングの方法				
第 2 回	社会学の基礎概念・理論と方法				
第 3 回	社会調査法（1）				
第 4 回	社会調査法（2）				
第 5 回	社会調査法（3）				
第 6 回	社会調査法（4）				
第 7 回	「医療社会学」の歴史と医療化				
第 8 回	病人役割と病気行動				
第 9 回	医療者－患者関係				
第 10 回	「家族社会学」の推移				
第 11 回	家族の形態と機能				
第 12 回	ジェンダーとセクシュアリティ				
第 13 回	「国際社会学」国民国家とグローバル化社会				
第 14 回	人口問題と地球規模諸課題				
第 15 回	各自の課題レポート発表とまとめ				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポートと発表（50%）、ブックレポート（40%）、授業・討論への参加（10%）				
テ キ ス ト	特定のテキストは指定しない。ブックレポートと講義内容の参考文献リストは初回ガイダンスで配布する。				
履修上の留意点	講義で学ぶ理論や方法論をふまえて、各自が取り組みたい課題についての発表とレポート作成を行う。レポートは初回に話すパラグラフ・ライティングの方法にのっとって書いてください。				
実務経験のある 教 員					
備 考	教員の連絡先：y.nishimura@kki.ac.jp 何かあれば遠慮なく連絡ください。				

授 業 科 目 名	臨床心理学				
担 当 教 員	◎ 菅 佐和子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義
授 業 の 目 標	高度先進医療化に伴い、医療および看護領域において、心理的ケアの必要性が急速に高まっている。本科目では、最近の臨床心理学の中から特に治療過程における問題や心理的ケアに関連する概念や理論およびその技法を、研究論文等を通して探求する。				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1・2 回	臨床心理学とはどのような学問分野であるのか、諸理論を概説。看護・医療分野でどのように活用されているのかを知る				
第 3・4 回	医療・看護の場で生じる心理的問題には、どのようなものがあるのか、対応の難しさはどこにあるか等、体験を通して共有する。				
第 5・6 回	適切な対応には「見立て」が不可欠である。「見立て」を経て有効な対応策が決まってくる。事例を通して「見立て」を学ぶ。 「見立て」の方法として、情報（資料）・観察・面接・心理検査等を理解する。				
第 7・8 回	「見立て」から具体的支援にどう繋げるか。 面接技法の重要性を学び、ロールプレイングを行う。				
第 9・10 回	看護カウンセリングの着眼点と技法。 看護カウンセリングの特性を理解し、応答技法を磨く。				
第 11・12 回	チーム医療における職種間連携のポイント。要の位置に立つ看護師の役割への認識を深める。				
第 13・14 回	事例研究論文の熟読と、それを基にした討論を通して医療・看護場面の事例理解を深める。				
第 15 回	まとめ				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
テ キ ス ト					
履修上の留意点	論文講読と講義内容に関するディスカッションを行う。 それらの結果を課題レポートにまとめる。				
実務経験のある 教 員					
備 考	必要な文献はその都度提示する。				

授業科目名	保健統計学				
担当教員	◎ 高見 栄喜、古川 秀敏				
履修学年	1年（通年）				
必修・選択の別	選択	単位数・時間	2単位・30時間	授業形態	講義・演習
授業の目標	<p>地域、学校、職場の医療に関する文献と統計情報を収集・検索し、解析できる能力を修得する。具体的には、健康に関する統計的定義の理解、記述分析能力および健康に関する影響因子等について実態調査し意思決定に至る思考能力、根拠に基づいた公衆衛生看護活動、統計調査を内容に含む研究論文を作成できる能力を醸成する。また基本的な統計学に関する知識や技術、医療情報データベース検索法および情報処理の技術に関する知識について研究論文を用いて探求する。特に、高度な統計解析手法については、解析技術を有する専門家から修得する。</p>				
授業回数	授業の内容				
第1回	<p>疫学的視点から健康に関する影響因子等についての調査方法や解析方法（パラメトリック・ノンパラメトリック検定での2群・3群の比較、相関分析など）、および基本的な統計手法に関する理解を深め、医療文献と統計情報を収集・検索し、記述分析できる解析法、また分析結果をグラフや表で視覚的に分かりやすく表現する技法を習得する</p> <p>看護研究をまとめるために欠かせないデータ解析方法としての多変量解析（主に重回帰分析・ロジスティック回帰分析など）を含めた高度な統計解析手法を習得する</p>				
第2回					
第3回					
第4回					
第5回					
第6回					
第7回					
第8回					
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
学習評価の方法 (成績割合%)	演習課題、講義課題等70%、プレゼンテーションの内容等30%を総合的に評価する。				
テキスト	講義に必要なテキストや文献等は、その都度指示する。				
履修上の留意点	エクセルなどのアプリケーションソフトウェアの操作が慣れていない場合は、事前に申し出てください。実際に、SPSSを用いた統計分析の演習を多く取り入れ、最後に演習課題を実施します。				
実務経験のある 教員	古川 秀敏（看護師）				
備考	教員の連絡先：h.takami@kki.ac.jp				

授業科目名	慢性看護学特論 I				
担当教員	◎小平 京子、神谷 千鶴、下舞 紀美代				
履修学年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	2単位・30時間	授業形態	講義
授業の目標	慢性病をもつ人を様々な健康状態の変化において包括的に理解するとともに、看護援助や看護技術の開発に必要な慢性病に関する主要概念と理論および介入に関する理論やモデルについて研究論文を通して探求する。				
授業回数	授 業 の 内 容				
第 1 回	慢性病患者を包括的に理解するための方法論としてのライフヒストリーとその分析方法				
第 2 回	・ ライフヒストリーとは				
第 3 回	・ ライフヒストリーの分析方法				
第 4 回	①ライフヒストリー法を用いた慢性疾患をもつ人の研究論文講読とクリティーク				
第 5 回	②同上				
第 6 回	①慢性病患者(主に腎不全患者)の看護介入に関わる主要モデルと関連する諸理論				
第 7 回	②同上				
第 8 回	③同上				
第 9 回	①モデルおよび諸理論を分析に用いた論文講読とクリティーク				
第 10 回	②同上				
第 11 回	③同上				
第 12 回	モデルおよび諸理論を分析に用いた論文講読とクリティーク				
第 13 回	慢性病患者(主にがん)に関する患者の生理、心理、社会的影響および家族への影響に関する諸理論とモデル				
第 14 回	・ 理論：不安および死の不安				
第 15 回	・ 不安および死の不安に関する研究論文の講読				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート 60%、プレゼンテーションやディスカッション内容等 40%				
テキスト					
履修上の留意点	方法は文献講読。各自テーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえでクリティーク所見を述べる。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取りあげたテーマについてレポートを作成する。レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。				
実務経験のある 教員	教員①小平 京子、教員②神谷 千鶴、教員③下舞 紀美代				
備 考	使用文献は1週間前に配布する。概説に用いるハンドアウトを準備する(A4 1枚 パワーポイントでの概説も可)				

授業科目名	慢性看護学特論Ⅱ				
担当教員	◎江川 隆子、小平 京子、神谷 千鶴				
履修学年	1年（通年）				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	2単位・30時間	授業形態	講義
授業の目標	慢性病をもつ人やその家族の看護上の問題（看護診断を含む）に対する看護治療および看護ケアの実践のための教育システムを開発するための諸理論を探求する。さらに、それらの看護に係る患者教育および看護者の教育システムの開発に必要な組織改革と開発のために、組織分析・システム分析に関する主要概念と諸理論について研究論文を通して探求する。				
授業回数	授 業 の 内 容				
第 1 回	①慢性病をもつ人への看護実践のための組織と教育システムの開発に関する主要概念と諸理論				
第 2 回	②同上				
第 3 回	①慢性病、主に糖尿病患者の看護に係る看護者の教育システムおよび患者教育システムに関する組織分析、システム分析				
第 4 回	②同上				
第 5 回	③同上				
第 6 回	④同上				
第 7 回	⑤同上				
第 8 回	⑥同上				
第 9 回	①慢性病、主に腎不全患者の看護に係る看護者の教育システムおよび患者教育システムに関する組織分析、システム分析				
第 10 回	②同上				
第 11 回	③同上				
第 12 回	④同上				
第 13 回	①慢性病をもつ人の家族の看護に係る看護者の教育システムおよび患者教育システムに関する組織分析、システム分析				
第 14 回	②同上				
第 15 回	③同上				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート 60%、プレゼンテーションやディスカッション内容等 40%				
テキスト					
履修上の留意点	方法は文献講読。各自テーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえでクリティーク所見を述べる。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取りあげたテーマについてレポートを作成する。レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。				
実務経験のある 教員	教員①江川 隆子、教員②小平 京子、教員③神谷 千鶴				
備 考	使用文献は1週間前に配布する。概説に用いるハンドアウトを準備する（A4 1枚 パワーポイントでの概説も可）				

授業科目名	慢性看護学演習 I				
担当教員	◎小平 京子、江川 隆子、神谷 千鶴				
履修学年	1年（通年）				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	2単位・60時間	授業形態	授業・演習
授業の目標	慢性看護学特論Iをふまえ、慢性病をもつ人およびその家族の行動や反応に関する諸理論や主要概念の分析とその方法について、学生個々の研究課題にそって研究論文を通して探求する。				
授業回数	授業の内容				
第1回	①慢性病（特に糖尿病、腎不全、がん患者等をもつ人への看護実践のための組織と教育システムの開発に関する主要概念と諸理論				
第2回	②同上				
第3回	①慢性病、主に糖尿病患者の看護に係る看護者の教育システムおよび患者教育システムに関する組織分析、システム分析				
第4回	②同上				
第5回	③同上				
第6回	④同上				
第7回	⑤同上				
第8回	⑥同上				
第9回	①慢性病、主に腎不全患者の看護に係る看護者の教育システムおよび患者教育システムに関する組織分析、システム分析				
第10回	②同上				
第11回	③同上				
第12回	④同上				
第13回	①慢性病をもつ人の家族の看護に係る看護者の教育システムおよび患者教育システムに関する組織分析、システム分析				
第14回	②同上				
第15回	③同上				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート 60%、プレゼンテーションやディスカッション内容等 40%				
テキスト					
履修上の留意点	方法は文献講読。各自テーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえでクリティーク所見を述べる。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取りあげたテーマについてレポートを作成する。レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。				
実務経験のある 教員	教員①江川 隆子、教員②小平 京子、教員③神谷 千鶴				
備考	使用文献は1週間前に配布する。概説に用いるハンドアウトを準備する（A4 1枚 パワーポイントでの概説も可）				

授業科目名	慢性看護学演習Ⅱ				
担当教員	◎小平 京子、神谷 千鶴				
履修学年	1・2年(通年)				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	4単位・120時間	授業形態	演習
授業の目標	慢性看護学特論Ⅱをふまえ、慢性病をもつ人の看護上の問題(看護診断を含む)に対する看護治療および看護ケアの実践のための教育システムの具体的な開発過程について探求する。さらにそれらの人々の療養生活の質の向上のための組織改革や医療改革の開発過程について研究論文を通して探求する。				
授業回数	授業の内容				
第1～30回	①慢性病(特に糖尿病、腎不全、がん等)に関する組織改革や患者教育システム看護師の教育システムの開発過程 ②～⑩ 同上				
第31～60回	①学生個々の看護の関心領域または研究課題に関わる組織やシステム分析の実践 ②～⑩同上				
学習評価の方法(成績割合%)	課題レポート(組織・システム分析)60%、プレゼンテーションやディスカッション内容等40%				
テキスト	「企業変革力」著：ジョン P. コッター(2002)/梅津祐良 訳(2017)日経BP社				
履修上の留意点	方法は文献講読。各自取り上げるテーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえで自分のクリティーク所見を述べる。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取り上げたテーマについてレポートを作成する。レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。				
実務経験のある教員	教員①小平 京子、教員②神谷 千鶴				
備考	使用文献は1週間前に配布する。概説に用いるハンドアウトを準備する(A4 1枚 パワーポイントでの概説も可)				



授業科目名	慢性看護学セミナー				
担当教員	◎小平 京子、神谷 千鶴、江川 隆子、笠岡 和子、山本 道雄、粟井 光代				
履修学年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	4単位・120時間	授業形態	演習
授業の目標	特論および演習を通して得た知識や技術をもとに、学生の研究課題にかかわる看護援助モデルや評価モデル、教育システムモデルなどの検討を深めるために、慢性疾患の専門外来などで参加観察やプレテストを通してその能力を修得する。さらに、学生の研究課題に沿った研究計画を検討する。				
授業回数	授業の内容				
第1～40回	①慢性病の看護領域のフィールド（糖尿病・腎不全・がん など）において、文献と経験を通して検討した看護介入モデルや組織・教育システムについての、参加観察やプレテストの実施、およびそれらの開発に係る修正とモデル作成の検討 学生の研究課題に沿った研究計画のプレゼンテーションとディスカッション ②～⑩同上				
第41～50回	①学生の研究課題に沿った最新の海外文献の検討（講読およびプレゼンテーション） ②～⑩同上				
第51～60回	①研究論文の記述方法とその技術の実践 ②～⑩同上				
学習評価の方法 （成績割合％）	課題レポート（研究課題に係る患者や家族のライフヒストリーの分析、フィジカルアセスメント結果、研究課題に係る組織・システム分析）および海外文献の講読結果のレポートの提出とプレゼンテーション 60％、研究計画プレゼンテーション 40％				
テキスト					
履修上の留意点	プレテストや参加観察は、目的や方法を明確にしたうえで計画を立案し指導教員に提出する。それらを基にした学生相互のディスカッションを通して、研究課題を明確にし、研究計画立案に反映する。ディスカッション後レポートを作成する。海外文献の講読レポートについては担当教員の指示に従う。				
実務経験のある教員	教員①小平 京子、教員②神谷 千鶴、教員③江川 隆子、教員④笠岡 和子 教員⑤山本 道雄（哲学）、教員⑥粟井 光代（文学）				
備考	プレゼンテーションに用いるハンドアウトを準備する（A4版2枚、パワーポイントでの概説も可能）				

授業科目名	慢性看護学実習				
担当教員	◎小平 京子、江川 隆子、奥津 文子、神谷 千鶴、笠岡 和子、下舞 紀美代、箕浦 洋子				
履修学年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	選択	単位数・時間	4単位・120時間	授業形態	実習
授業の目標	<p>学生の研究課題に関わる関連病院等において、教員および専門看護師等と協働し、研究課題に沿って患者のライフヒストリーの聴取や分析、フィジカルアセスメント等を実施し、健康の回復に影響する因子を明らかにしたうえで、看護介入とその有効性を検証する。あるいは、有効な看護介入のために開発した組織や教育システムを実施し、その有効性を検証する。</p>				
授業回数	授 業 の 内 容				
第1～60回	<p>1. 各自の研究課題に関わる実践の検証が可能な医療施設等において、有効な看護介入のために開発し授業等で修正した組織や教育システム、あるいは患者教育等の看護介入（モデル）に基づいた実践を専門看護師などの指導者や教員の指導を受けながら行う。</p> <p>2. 実践内容とその有効性についてレポートにまとめ、プレゼンテーションでのディスカッションや教員・指導者の指導を受けて、開発した組織や教育システム、看護実践を修正する。</p>				
学習評価の方法 (成績割合%)	実習に関するレポート 60%、臨床の指導者を交えたカンファレンスにおける評価 20%、プレゼンテーションおよびディスカッション等 20%				
テキスト					
履修上の留意点	実習にあたっては、その目的・目標・方法等の計画を立案し、事前に指導教員のコメントを受ける。実習施設における連絡調整は積極的に行う。実習内容については臨床の指導者より指導を受ける。最後に実習で明らかにした研究課題に関するレポートを提出する。				
実務経験のある教員	教員①小平 京子、教員②江川 隆子、教員③奥津 文子、教員④神谷 千鶴 教員⑤笠岡 和子、教員⑥下舞 紀美代、教員⑦箕浦 洋子				
備考	プレゼンテーションに用いるハンドアウトを準備する（A4版2枚、パワーポイントでの概説も可能）				

授業科目名	地域看護学特論 I				
担当教員	◎伊木 智子、古川 秀敏、菅 佐和子				
履修学年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	2単位・30時間	授業形態	講義
授業の目標	現象や状況に関するリサーチエビデンスを駆使したケアを実践できる能力を養うために、地域看護学の基本的かつ主要な概念であるヘルスプロモーションの概念分析・理論について国内外の文献を用いて探究する。また、ヘルスプロモーションの考えに基づく地域看護活動の効果的な支援方法の開発と評価について研究論文を通して探求する。				
授業回数	授 業 の 内 容				
第 1～8 回	我が国及び諸外国におけるヘルスプロモーションの概念に関する国内外の文献レビューをもとに、ヘルスプロモーション活動の現状を分析し、課題を検討し地域看護活動との関連を考察する。さらに、地域看護診断と健康課題との関連を構造的にとらえ、地域における生活習慣病・介護予防に関するヘルスプロモーションのための地域看護活動の展開方法と技術開発を探究する。				
第 9～14 回	地域住民のグループ育成やネットワーク構築について、ヘルスプロモーションの概念に基づいた地域看護活動の理論的枠組みを考察する。さらに、対象者理解のためのライフストーリーに関する基礎知識、方法論を探究する。				
第 15 回	地域看護学に重要な発達理論およびライフサイクル・ライフステージに係る発達課題とヘルスプロモーションとの関連について考察する。				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポートを 60% 授業への主体的参加を重視し、討論の準備、参加、プレゼンテーションの内容を 40%				
テキスト	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	教授方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。				
実務経験のある 教員					
備考					

授 業 科 目 名	地域看護学特論Ⅱ				
担 当 教 員	◎ 古川 秀敏、伊木 智子				
履 修 学 年	1年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2単位・30時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	<p>住民が自立した生活を送れることを支えるためのシステムを構築・改変する能力を養う。地域看護学における看護活動実践のための組織と教育システムに必要な組織力と看護援助能力を開発するために、組織分析・システム分析に関する必要概念と理論を国内外の研究論文をとおして探求する。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	<p>地域ヘルスシステムと健康教育システムおよびそれらに係る看護者の教育システムの開発に必要な組織分析・システム分析に関する主要概念と理論について探求する。</p> <p>高齢者を取り巻く保険医療福祉政策の現状と課題を多面的に理解し、退院支援や地域連携に関するシステムの構築およびそれらに係る看護者の教育システムの開発に必要な組織分析・システム分析に関する主要概念と理論について探求する。</p> <p>Community-Based Participatory Research（コミュニティを基盤とした参加型研究）や住民との協働による地域づくりの文献を用いて、地域住民のグループ育成やネットワーク構築の支援方法およびそれらに係るシステムの開発に必要な組織分析・システム分析に関する主要概念と理論について探求する。</p> <p>地域看護学に重要な発達理論およびライフサイクル・ライフステージに係る発達課題とヘルスプロモーションとの関連について考察する。</p>				
学習評価の方法 (成績割合%)	授業への主体的参加を重視し、討論の準備（30%）、討論への参加（30%）、プレゼンテーションの内容（40%）を総合的に評価する。				
テ キ ス ト	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	教授方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行う。				
実務経験のある 教 員	古川 秀敏（看護師）、伊木 智子（保健師・看護師）				
備 考	教員の連絡先；h.furukawa@kki.ac.jp				

授業科目名	地域看護学演習 I				
担当教員	◎伊木 智子、古川 秀敏				
履修学年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	2単位・60時間	授業形態	演習
授業の目標	現象や状況を批判的に分析し、ケアを変革していく能力を養う。地域看護学特論 I で学んだことから、自分の関心のある分野を選択し、関心のある現象についての概念について文献レビューを通して探究する。				
授業回数	授業の内容				
第1～10回	生活習慣病予防看護領域の国内外の文献レビューによる考察を深め、ライフヒストリーの分析をもとに予防的看護活動における学生自らの興味・関心のある研究に関連する概念や理論を探究する。				
第11～14回	住民との協働による地域づくりにむけて、先行研究をふまえ、地域住民のグループ育成やネットワーク構築の支援方法を学び、学生自らの興味・関心のある研究に関連する概念や理論を探究する。				
第21～30回	在宅における高齢者や家族、介護予防看護に関する国内外の文献レビューによる考察を深め、在宅看護や高齢者の介護予防看護領域において、学生自らの興味・関心のある概念や理論を探究する。				
学習評価の方法(成績割合%)	課題レポートを60%、授業への主体的参加を重視し、討論の準備、討論への参加、プレゼンテーションの内容を40%として総合的に評価する。				
テキスト	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	演習方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。				
実務経験のある教員					
備考					

授 業 科 目 名	地域看護学演習Ⅱ				
担 当 教 員	◎ 古川 秀敏、伊木 智子				
履 修 学 年	1年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	4単位・120時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	域看護学領域におけるシステム構築に関する主要な概念の分析と諸理論について事例分析と研究論文を通して探求する。				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1～ 20 回	生活習慣病・介護予防を目的とした地域ケアシステム構築に関する研究のレビューを行う。地域ヘルスケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、組織分析のための計画の立案を行い、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。				
第 21～ 30 回	高齢者やその家族に対する看護援助や高齢者ケアシステムの充実・発展、介護予防に関する地域ケアシステム構築に関する研究をレビューし、高齢者ケアシステム、介護予防に関する地域ケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。				
第 31～ 40 回	住民との協働による地域ケアシステム構築に関する研究をレビューし、住民主体の地域ヘルスケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。				
第 41～ 60 回	淡路地域で実践されている生活習慣病予防システム、住民主体の地域ヘルスケアシステム、高齢者ケアシステム、介護予防システムにおいて、行政機関に勤務する保健師など専門職及び事務職と共に、課題の抽出・分析、システムの改革・構築の試案を作成、実践・検証する。				
学習評価の方法 (成績割合%)	授業への主体的参加を重視し、討論の準備（30%）、討論への参加（30%）、プレゼンテーションの内容（40%）を評価する。				
テ キ ス ト	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	教授方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行う。				
実務経験のある 教 員	古川 秀敏（看護師）、伊木 智子（保健師・看護師）				
備 考	教員の連絡先：h.furukawa@kki.ac.jp				

授業科目名	地域看護学セミナー				
担当教員	◎ 古川 秀敏、山本 道雄、伊木 智子				
履修学年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	4単位・120時間	授業形態	演習
授業の目標	実践技術の研究・検証を理論開発につなげ、その領域の学問の基礎をつくる能力を養う。特論および演習で得た知識や技術を通して開発した組織やシステム、看護実践等の検証のために、地域や組織、チーム等において、実践的研究方法を修得する。				
授業回数	授業の内容				
第1～10回	ライフストーリーの分析、組織分析をもとに学生自らの興味・関心のある研究課題に関連する概念や理論を探究し、特に国外における英文献を中心に関連する概念や理論を探究する。				
第11～15回	退院支援や地域連携に関するシステム構築において、看護援助モデルや組織、教育システムの開発と検証のために訪問看護ステーションや地域包括支援センターなどの地域組織、チーム等において、事例検討を通じて、参加観察型実習やプレテストの実施、およびそれらの開発に係る修正とモデル作成を行う。				
第16～40回	生活習慣病・介護予防を目的とした地域ヘルスケアシステム構築において、開発した保健指導モデルや健康教育モデル、教育システムの開発と検証のために、地域組織、チーム等において、健康課題の抽出からヘルスケアシステムの構築につなげていく事例を通じて、参加観察型実習やプレテストの実施およびそれらの開発に係る修正とモデル作成を行う。				
第41～60回	地域住民のグループ育成やネットワーク構築において、看護援助モデルや組織、教育システムについての参加観察型実習やプレテストの実施、およびそれらの開発に係る修正とモデル作成を行う。 *高度実践看護職コースは、地域看護活動において、リーダーとして必要な企画・調整機能・スタッフに対する相談・教育機能及び実践的研究をする。 *教育者・研究者コースは、実践技術の研究・検証を理論開発につなげ、地域看護学領域の学問を体系的に探究する。				
学習評価の方法 (成績割合%)	授業への主体的参加を重視し、討論の準備(30%)、討論への参加(30%)、プレゼンテーションの内容(40%)を評価する。				
テキスト	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	教授方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献または学生が選定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行う。				
実務経験のある教員	古川 秀敏（看護師）、伊木 智子（保健師・看護師）				
備考	教員の連絡先：h.furukawa@kki.ac.jp				

授業科目名	地域看護学実習				
担当教員	◎伊木 智子、古川 秀敏				
履修学年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	選択	単位数・時間	4単位・120時間	授業形態	実習
授業の目標	<p>学生の研究課題に係る自治体や地域看護専門看護師および慢性疾患看護専門看護師が勤務している訪問看護ステーション、保健福祉施設等において、教員や保健師、看護師、助産師他関連職種と協働し、開発した看護介入を実践し、その有効性を検証する能力を修得する。</p>				
授業回数	授 業 の 内 容				
第1～60回	<p>（公衆衛生看護管理） 一つの行政地域を単位として地域診断を実施し、地域の活動計画、評価計画を立案する。それに基づいて保健事業プログラムを開発し、実践現場の保健師と共に効果的な事業の運営や管理を行い、公衆衛生看護管理に必要な実践能力やケア方法を開発する能力を培う。また、他機関や他組織との連携、ネットワーク形成などの現状と課題を分析し、望ましいケアシステム形成へ向けて調整する能力を修得する。</p> <p>（在宅・老年看護学） 専門看護師が勤務する訪問看護ステーションで、在宅看護専門職に必要な高度な実践能力とケア開発能力、倫理的判断能力、教育、相談、調整に関する能力を培う。そのために、専門看護師と共に在宅生活の継続期、移行期にある複雑な問題を抱えた療養者を受け持ち、高度な看護実践を行う。また、チームアプローチの促進に向けて重要な課題である在宅ケアスタッフに関する教育、相談、他職種他組織との連携を行うことを中心としながら、問題解決していく能力を修得する。</p>				
学習評価の方法 (成績割合%)	実習態度、実習内容、記録、カンファレンス、実習レポートを通して総合的に評価する。				
テキスト	教科書は特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。				
履修上の留意点					
実務経験のある 教員					
備 考					



授 業 科 目 名	母性看護・助産学特論 I				
担 当 教 員	◎ 松村 恵子、塩田 敦子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]          女性のライフサイクルと家族の発達・妊娠・出産・育児に関する支援、ウイメンズヘルスケアに関する概念と理論、特別な支援を要する女性の健康問題や、周産期の遺伝医療、出生前診断、生殖補助医療等、生殖に関する高度先端医療について学修する。</p> <p>[学修目標]          1. ウィズメンズヘルスケアに関する概念と理論について記述整理し説明できる。          2. 女性のライフステージ各期のメンタルヘルスと健康支援について説明できる。          3. 女性のライフサイクルと家族の発達・妊娠・出産・育児支援について説明できる。          4. 現代女性に特別に支援を要する健康問題や、周産期の遺伝医療、出生前診断、生殖補助医療等、生殖に関する先端医療について記述整理し説明できる。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 女性と家族の生涯に渡る健康における性と生殖（松村）【講義】 ・性科学の概念 ・性の多様性 ・ウイメンズヘルスケア				
第 2 回	2. 女性のライフサイクルと家族の発達（松村）【講義・演習】 ・女性の生涯と社会の移り変わり ・マタニティサイクル				
第 3 回	3. ウィズメンズヘルスケアに関する概念と理論（松村）【講義】 ・ナラティブレビュー ・システムティックレビュー				
第 4～5 回	4. ウイメンズヘルスと周産期の助産ケア（松村）【講義・演習】 ・クリニカルクエスションからリサーチクエスションへ				
第 6 回	5. 女性と家族の妊娠、出産、育児に関する支援（松村）【講義】 ・女性のライフステージ各期のメンタルヘルスと健康支援				
第 7～11 回	6. ウイメンズヘルスに関する文献レビュー（松村）【演習】 Presentation & discussion 【慢性看護学特論 I：合同講義 5 回】 ウイメンズヘルスに関する疾患を持つ人を包括的に理解するためのライフヒストリーとその分析方法				
第 12～15 回	12. 現代女性に特別に支援を要する健康問題（塩田）【講義】 ・不妊、月経障害等で悩む女性の支援 ・東洋医学の効用 13. 周産期の遺伝医療と遺伝カウンセリング（塩田）【講義】 ・遺伝医学の重要性 ・遺伝と遺伝性疾患 14. 出生前診断の概念、目的、生命倫理（塩田）【講義】 ・出生前診断におけるガイドライン ・着床前遺伝子診断 15. 生殖補助医療（塩田）【講義】 ・生殖補助医療の実際 ・生殖補助医療における課題				
学習評価の方法 (成績割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢。知識や理論に基づいた presentation&discussion 30%、授業終了時の小論文 70%とする。学修内容はルーブリック評価とする。単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて課題を提示し質向上を目指します。				
テ キ ス ト	助産師基礎教育第 2 巻 ウイメンズヘルスケア 日本看護協会出版会 助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 医学書院 その他参考書等、授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	母性看護・助産学特論 I の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、塩田 敦子（医師）				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学特論Ⅱ				
担 当 教 員	◎ 松村 恵子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>助産実践能力の質向上を目指す指標、多様な課題を持つ助産ケア対象の支援、子育て世代包括支援、院内助産、助産学研究における法規範と倫理等に関する研究課題を組織分析し、システムとしての構築や変革に関する概念や理論について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産実践能力の質向上を目指す指標について記述整理し説明できる。</li> <li>2. ウィメンズヘルスにおける女性とパートナーのケアについて説明できる。</li> <li>3. 多様な課題を持つ助産ケア対象の支援について説明できる。</li> <li>4. 母子とその家族の安全・安心な地域包括ケアシステムについて説明できる</li> <li>5. 周産期医療施設における院内助産システムの実際と課題について説明できる。</li> <li>6. 助産実践の質向上を目指す助産学研究について自らの考えを説明できる。</li> </ol>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1～5 回	【慢性看護学特論Ⅱ：合同講義5回】 研究課題に関する組織分析と目的、組織分析の視点と方法、システムとして構築・ 改変するための組織分析の概念と理論。				
第 6 回	6. 助産実践能力の質向上を目指す指標【以下すべて講義・演習】				
第 7 回	7. 国際助産師連盟「助産実践に必須のコンピテンシー」				
第 8 回	8. 日本助産学会「日本の助産師が持つべき実践能力と責任範囲」				
第 9 回	9. 日本助産師会が示す「助産師のコア・コンピテンシー」と開業助産師のクリニカルラダー・日本看護協会が示す「助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)」				
第 10 回	10. ウィメンズヘルスにおける女性とそのパートナーのケア ・プレコンセプションケアの概念 ・安全な性行動の意志決定				
第 11 回	11. 多様な課題を持つ助産ケア対象の支援における社会資源 ・社会的ハイリスク(特定妊婦、妊娠の受容困難、未受診者等) ・性差医療の対象 ・在留外国人の妊産褥婦と子その家族				
第 12 回	12. 母子とその家族の安全・安心な地域包括ケアシステム ・子育て世代包括支援 ・産後ケア ・地域連携				
第 13 回	13. より充実した母子ケアのための体制整備 ・産科混合病棟ユニットマネジメント ・周産期危機管理				
第 14 回	14. 周産期医療施設における院内助産システム ・院内助産と助産師外来 ・オープン、セミオープンシステム				
第 15 回	15. 助産学研究における法規範と倫理・助産実践の質向上				
学習評価の方法 (成績割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢。知識や理論に基づいた presentation & discussion 30%、授業終了時の小論文 70%とする。学修内容はルーブリック評価とする。 単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて課題を提示し質向上を目指します。				
テ キ ス ト	その他参考書等、授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	母性看護・助産学特論Ⅱの授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある 教 員	松村 恵子（助産師）				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学演習 I				
担 当 教 員	◎ 松村 恵子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単 位・60 時 間	授 業 形 態	講義・演習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要] 母性看護学・助産学の研究領域における現象等に関するリサーチエビデンスを駆使したケアを実践できる能力を育むために、母性看護・助産学特論 I での学びを継続し、研究成果を論述した国内外の原著論文をクリティークする。このクリティークの presentation &amp; discussion を通して概念、理論の適用や実践の検証について学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 母性看護学・助産学の研究領域における課題について説明できる。 2. 論文クリティークの意義、目的、方法を基盤として論文をクリティークできる。 3. 研究におけるクリニカルクエスチョン、リサーチクエスチョンを説明できる。 4. 看護界に貢献する研究課題の設定について記述整理し説明できる。 5. 自らの研究課題を決定し研究計画書に記述できる。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 母性看護学・助産学における研究課題の概観【講義】				
第 2 回	2. 現段階で考えている自らの研究課題の presentation【演習】				
第 3 回	3. 研究課題における新規性、有用性、信頼性【講義】				
第 4 回	4. 論文クリティークの意義と方法【講義】				
第 5 回	5. ウィメンズヘルスに関する原著論文クリティーク【演習】				
第 6 回	6. 研究デザイン個々からの文献探索【演習】				
第 7～9 回	1) 量的研究 3 編 ② 質的研究 3 編				
第 10 回	2) 量的研究論文 presentation & discussion				
第 11 回	3) 質的研究論文 presentation & discussion				
第 12～13 回	4) 年次推移から文献検索【演習】				
第 14 回	5) 年次推移からの文献 presentation & discussion				
第 15～16 回	6) 日本における和文献検索【演習】				
第 17 回	7) 日本における和文献 presentation & discussion				
第 18～20 回	8) 国外における英文献検索【演習】				
第 21 回	9) 国外における英文献 presentation & discussion				
第 22 回	7. 研究におけるクリニカルクエスチョン【講義・演習】				
第 23 回	8. 研究におけるリサーチクエスチョン【講義・演習】				
第 24 回	9. 研究の意義、問題の所在と研究課題の設定【講義】				
第 25 回	10. 自らの研究課題に関する presentation【演習】				
第 26～27 回	11. 研究課題の分析 presentation & discussion				
第 28 回	12. 研究計画書作成における主要な構成要素【講義】				
第 29～30 回	13. 自らの研究計画書の吟味・検討 presentation & discussion				
学習評価の方法 (成績割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢。知識や理論に基づいた presentation & discussion 70%、研究計画書 30% とする。学修内容はルーブリック評価とする。presentation 時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて課題を提示し質向上を目指します。				
テ キ ス ト	その他参考書等、授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	母性看護・助産学演習 I の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある 教 員	松村 恵子（助産師）				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学演習Ⅱ				
担 当 教 員	◎松村 恵子、尾筋 淑子、永峰 啓子、専門分野教員				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	4単位・120時間	授 業 形 態	講義・演習
授 業 の 目 標	<p><u>高度実践看護職養成コース</u>  [授業の概要]  研究課題にかかわる組織分析やシステムとして構築・変革するための分析方法を学修する。思春期、成熟期女性、中高年女性とその家族に対する助産ケアやソーシャルサポートに関する理論と、健康問題に対する健康教育、集団教育の演習を通してヘルスプロモーション向上のための知識と技術を学修する。  NICU・GCUに入院した児及び家族への支援について演習を通して学修する。  病院における助産マネジメントの視点から助産業務管理について演習を通して学修する。</p> <p>[学修目標]  1. 研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析の方法と分析結果の記述できる。  2. 思春期女性の健康と健康問題に対する健康教育が実施できる。  3. 中高年女性の健康や更年期女性の健康問題に対する健康教育が実施できる。  4. NICU・GCUに入院した児及び家族への支援について記述し、説明できる。  5. 病院における助産マネジメントの視点から助産業務管理について記述し、説明できる。</p> <p><u>教育者・研究者養成コース</u>  [授業の概要]  研究課題にかかわる組織分析やシステムとして構築・変革するための分析方法を学修する。研究課題に関する先行研究論文を記述する。</p> <p>[学修目標]  1. 研究課題に関する先行研究論文を記述し、説明できる。  2. 研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析の方法と分析結果を記述し、説明できる。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 ～ 20 回 第 21 ～ 32 回 第 33 ～ 40 回 第 41 ～ 50 回 第 51 ～ 60 回	<p><u>高度実践看護職養成コース</u>  ・研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析の方法と分析結果の記述と発表（松村）【演習】  ・思春期女性の健康と健康問題に対する集団教育、個別相談、健康教育に伴うヘルスプロモーション向上のための知識、技術の探究（永峰）【演習】  ・中高年女性の健康や更年期女性の健康問題に対する集団教育と個別相談、健康教育に伴うヘルスプロモーション向上のための知識、技術の探究（尾筋）【演習】  ・NICU・GCUに入院中の児とその家族に対するケアの実際を施設において参加観察を通して学ぶ。ハイリスク妊娠予防のヘルスケアシステムの現状を把握し課題を検討する。（専門分野教員）【演習】  ・助産マネジメントの視点から、病院において安全安楽な出産環境を提供するために妊娠から育児までの助産業務管理について参加観察の助産演習を通して助産システムの現状を把握し課題を検討する。（専門分野教員）【演習】</p>				
第 1 ～ 20 回 第 21 ～ 60 回	<p><u>教育者・研究者養成コース</u>  ・研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析の方法と分析結果の記述と発表（松村）【演習】  ・研究課題に係る助産ケア実践のための教育システムの開発過程に関する研究論文の検討。  研究課題に係る助産ケアの質の向上のための組織改革や医療改革の開発過程に関する研究論文の検討。研究課題に係るシステムや組織分析の実践。（松村）【演習】</p>				
学習評価の方法 (成績割合%)	単元毎の課題レポート60%、討論の内容が知識や理論に基づいているかプレゼンテーション40%、学修内容は基準に基づいたルーブリック評価とする。				
テ キ ス ト	教材・テキスト、参考書は授業の中で適時提示する。				
履修上の留意点	施設での演習は、施設の規定に則り誠実に演習を行う。主体的な学修姿勢で、自らの健康管理を徹底し、演習に臨む。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある 教 員	松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、永峰 啓子（助産師） 専門分野教員（助産師）				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学セミナー				
担 当 教 員	◎ 松村 恵子、山本 道雄、谷川 裕子、夏目 奈緒子、小笠原 百恵、藤尾 さおり				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	4 単 位・120 時 間	授 業 形 態	演 習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要] 母性看護学・助産学の学術的基盤に基づいた実践・教育・研究について国内外の現状と課題を分析し、看護界に貢献できる自らの研究課題を様々な演習を通して発見し、科学的な分析に基づいて論理的に明文化した研究計画書作成への過程を学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 自らの研究課題に関する英論文のクリティークができる。 2. 助産師が実践する障がい児とその家族の支援について記述整理し説明できる。 3. 助産師が実践する海外在住日本人の支援について記述整理し説明できる。 4. 母性看護学・助産学の研究領域における対象の現象について記述できる。 5. 自らの研究課題を科学的に分析する研究計画書作成過程について説明できる。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 ～ 10 回	1. 研究課題に関する英論文のクリティーク（山本）【演習】				
第 11 ～ 16 回	2. 障がい児の育児支援やペリネイタルロスの支援、母親およびその家族への支援（谷川）【演習】				
第 17 ～ 18 回	3. 助産師として支援をするため参画観察の助産演習を通して障がい児の現状を把握し課題の検討（藤尾）【演習】				
第 19 ～ 22 回	4. 海外在住日本人の周産期や育児期における母子とその家族への支援と助産師としての支援活動の実際（夏目）【演習】				
第 23 ～ 24 回	5. 助産師として外国人への支援をするために、文献を通して在日外国人の現状を把握し課題の検討（小笠原）【演習】				
第 25 ～ 30 回	6. 女性のライフサイクルと家族の発達・妊娠・出産・育児に関する支援、ウイメンズヘルスケアに関する概念と理論、特別な支援を要する女性の健康問題や、周産期の遺伝医療、出生前診断、生殖補助医療等、生殖に関する高度先端医療に関する論文クリティークと presentation&discussion（松村）【演習】				
第 31 ～ 36 回	7. 助産実践能力の質向上を目指す指標、多様な課題を持つ助産ケア対象の支援、子育て世代包括支援、院内助産、助産学研究における法規範と倫理等に関する研究課題を組織分析し、システムとしての構築や変革に関する概念や理論、方法に関する論文クリティークと presentation&discussion(松村)【演習】				
第 37 ～ 41 回	8. 母性看護学・助産学の研究領域における現象等に関するリサーチエビデンスを駆使したケアを実践できる研究力を育む基盤となる研究成果を論述した国内外の原著論文のクリティークと presentation&discussion(松村)【演習】				
第 42 ～ 60 回	9. 自らの研究課題を科学的に分析してリサーチクエストを論理的に明文化した研究計画書作成の吟味・検討（松村）【演習】				
学習評価の方法 (成績割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢。知識や理論に基づいた presentation & discussion 70%、研究計画書 30% とする。学修内容はルーブリック評価とする。presentation 時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて課題を提示し質向上を目指します。				
テ キ ス ト	その他参考書等、授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	母性看護・助産学演習Ⅰの授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある 教 員	松村 恵子(助産師)、小笠原 百恵(助産師)、谷川 裕子(助産師) 藤尾 さおり(助産師)、夏目 奈緒子(助産師)				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学実習				
担 当 教 員	◎松村 恵子、尾筋 淑子、松尾 真璃、渡辺 和香、夏目 奈緒子、専門分野教員				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	4単位・120時間	授 業 形 態	実習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]          大学院助産学生として自身の関心、課題に係る施設において、教員および助産師と協働し、課題に沿って実習を実施する。</p> <p>[学修目標]          1. 助産院における助産管理、助産管理システム、マネージメント能力、リーダーシップについて記述し、説明できる。          2. 地域における助産師の女性と子育て支援の実際と課題、育児支援の組織作り、産後ケアについて記述し、説明できる。          3. 異文化社会における助産師の母子および家族の支援、現状について記述し、説明できる。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1～60 回	1) ほっこ助産院（松尾真璃）【実習】 ・助産院において、安全・安楽・快適な出産環境を提供するためのマネージメントができる能力やリーダーシップ ・助産管理や周産期管理システムの連携（松尾真璃）【実習】 2) ほっかばか助産院（渡邊和香）【実習】 ・地域における助産師活動を通して、女性と子育て支援の実際と課題、関連機関・関連職種との連携、育児支援の組織作り ・産後ケアにおける助産師の専門性 3) NIC SERVICELLC（夏目奈緒子）【実習】 ・ハワイ州の出産風俗・文化、社会のありよう・価値観 ・異文化での助産師の母子保健活動や母子とその家族の支援の現状				
学習評価の方法 (成績割合%)	実習レポート（60%）、主体的に課題に取り組む姿勢、討論の内容が知識や理論に基づいているかカンファレンス（40%）。学修内容は、基準に基づいたルーブリック評価とする。				
テ キ ス ト	教科書は特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。				
履修上の留意点	自身の課題を明確にしたうえで、主体的に実習に臨む。 実習施設においては施設長、指導者、スタッフが指導にあたる。				
実務経験のある 教 員	松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、松尾 真璃（助産師）、渡辺 和香（助産師）、夏目 奈緒子（助産師）				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	生殖機能論（母子の基礎科学）				
担 当 教 員	◎ 神谷 映里、濱西 正三				
履 修 学 年	1年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>生殖に関する母子の基礎科学として、リプロダクションに関する解剖・生理、人間の性と生殖の概念、性の多様性や性をめぐる諸問題について学修する。また、生殖の形態と機能や、生殖に関連する疾患、母子の免疫、母子と感染、女性のライフサイクル各期におこる疾患、女性生殖器と乳房の疾患について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 性と生殖に関する解剖と生理が説明できる。</li> <li>2. 性の機能と行動が説明できる。</li> <li>3. 母体の免疫学的特性が説明できる。</li> <li>4. 母子感染について説明ができる。</li> <li>5. 婦人科疾患について説明ができる。</li> </ol>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	性と生殖の概念と助産（神谷）【講義】 女性のライフサイクルにおけるからだの性と心の性				
第 2 回	リプロダクションに関する解剖・生理（1）（濱西）【講義】				
第 3 回	リプロダクションに関する解剖・生理（2）（濱西）【講義】				
第 4 回	性の行動と機能（濱西）【講義】				
第 5 回	母子と免疫（濱西）【講義】				
第 6 回	母子と感染、婦人科感染症（濱西）【講義】				
第 7 回	女性のライフサイクル各期におこるおもな疾患（濱西）【講義】				
第 8 回	女性生殖器と乳房の疾患（濱西）【講義】				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題 10%（神谷） 定期試験 90%（濱西）				
テ キ ス ト	<p>助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学（医学書院）          助産師基礎教育テキスト第 2 巻 ウイメンズヘルスケア（日本看護協会出版会）          病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第 4 版（メディックメディア）          病気がみえる vol.10 産科 第 4 版（メディックメディア）          その他 参考書については授業中に適宜紹介する。</p>				
履修上の留意点	女性の生殖機能を身体的に理解するための基礎となる科目です。毎回の授業後に提出される記述内容により学修状況を確認します。毎回の復習をして次の授業に備えてください。				
実務経験のある 教 員	神谷 映里（助産師）、濱西 正三（医師）				
備 考	教員の連絡先：e.kamiya@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産学概論				
担 当 教 員	◎ 松村 恵子				
履 修 学 年	1年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講義・演習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要] 助産師としての求められる基本的な資質・能力における助産師と倫理、助産の起源と将来、出産の変遷、助産における基本的な概念、助産師のコア・コンピテンシー、助産学を構成する理論と研究について学修する。</p> <p>[学修目標] 1. 助産師として求められる倫理について記述整理し説明できる。 2. 助産における基本的概念、助産師の定義と業務の専門性について説明できる。 3. 助産師の役割と責務、コア・コンピテンシーについて記述整理し説明できる。 4. 助産学を構成する理論と助産学研究について記述整理し説明できる。 5. 助産師としての生涯発達について自らの考えを presentation できる。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回 （ 課 題 ① ）	1. 助産師として求められる倫理【講義・演習】 ・助産における倫理と生命倫理・倫理的判断を支える諸概念 ・助産実践に関わる倫理的課題と意思決定支援				
第 2 回	2. 助産の概念【講義】 ・助産の起源・出産の変遷・助産の定義・助産の将来				
第 3 回	3. 助産における基本的な概念【講義】 ・リプロダクティブヘルス/ライツ・ヒューマンセクシュアリティ ・エビデンスに基づいた助産・女性と家族の助産ケア				
第 4 回	4. 助産師の定義と業務の専門性【講義】 ・助産師の定義と関する法律・助産師業務に関する法律				
第 5 回 （ 課 題 ② ）	5. 助産師の役割と責務、助産師に求められる能力【講義・演習】 ・助産師のコア・コンピテンシー				
第 6 回 （ 課 題 ③ ）	6. 助産学を構成する理論および助産師を支える理論と研究【演習】 ・助産実践を支える理論・助産学における対象理解 ・助産学に関連する学問領域と探究・助産学研究の方法				
第 7 回	7. 助産師として求められる基本的な資質と能力【講義・演習】 ・助産に関する専門的知識・助産ケアの基盤となる概念や理論 ・助産ケアの対象、多職種と連携協働のコミュニケーション				
第 8 回	8. 助産師としての生涯発達【講義】 ・専門的自律能力・助産学の発展				
学習評価の方法 (成績割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢。知識や理論に基づいた presentation&discussion20%、課題レポート30%、授業修了時の小論文50%とする。学修内容はルーブリック評価とする。単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて課題を提示し質向上を目指します。				
テ キ ス ト	助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産学概論 日本看護協会出版会 助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院 その他 参考書は授業中に適宜紹介する。				
履修上の留意点	助産学概論の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある 教 員	松村 恵子（助産師）				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				



授業科目名	助産文化・国際論				
担当教員	◎松村 恵子、小笠原 百恵、大原 良子、吉野 八重、谷口 初美				
履修学年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	1単位・15時間	授業形態	講義・演習
授業の目標	<p>[授業の概要]</p> <p>日本の助産と出産の変遷および諸外国の助産と出産の変遷について学び自らの考えを深め、多様な文化的背景を持つ女性とその家族の理解ならびに国際社会における周産期医療の現状と課題、母子保健活動における課題について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における助産と出産の変遷について記述し説明できる。</li> <li>2. 諸外国の助産と出産の変遷について記述し説明できる。</li> <li>3. 多様な文化における妊娠・出産・育児、社会資源について説明できる。</li> <li>4. 多様な文化的背景と助産の特性について自らの考えを述べ討論できる。</li> <li>5. 国際社会における周産期医療の現状と課題、助産師の責務の説明ができる。</li> </ol>				
授業回数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 日本と諸外国における助産と出産の変遷(松村)【講義】 ・日本の古代から江戸時代まで ・明治から現代まで ・諸外国の17世紀まで ・18～19世紀 ・20～21世紀				
第 2 回	2. 助産と出産と文化(小笠原)【講義】 ・多様な文化における助産 ・日本の産育(助産)習俗 ・多様な文化における妊娠・出産・育児				
第 3 回	3. オーストラリアの助産・出産文化(大原)【講義・演習】				
第 4 回	4. オーストラリアの助産師教育と助産師活動(大原)【講義】				
第 5 回	5. 国際社会におけるリプロダクティブヘルス / ライフの現状と課題における助産師の役割(吉野)【講義・演習】				
第 6 回	6. リプロダクティブヘルス / ライフと国際社会における周産期医療の現状と母子保健活動(吉野)【講義】				
第 7 回	7. 世界の助産と出産、母子保健の現状と課題(谷口)【講義】				
第 8 回	8. 国際助産師連盟(ICM)の設立(谷口)【講義・演習】 ・世界の助産師の活動 ・日本の助産師の海外活動				
学習評価の方法(成績割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢。知識や理論に基づいた presentation&discussion25%、単元毎の課題レポート25%、授業修了時の小論文50%とする。 学修内容はルーブリック評価とする。単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて課題を提示し質向上を目指します。				
テキスト	助産師基礎教育テキスト第1巻 助産学概論 日本看護協会出版会 最新版 助産学講座I 基礎助産学[1] 助産学概論 医学書院 最新版 その他参考書等、授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	助産文化・国際論に関する知識や理論に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある教員	松村 恵子(助産師)、小笠原 百恵(助産師)、大原 良子(助産師) 吉野 八重(助産師)、谷口 初美(助産師)				
備考	教員の連絡先:k.matsumura@kki.ac.jp				

授業科目名	助産教育論				
担当教員	◎松村 恵子				
履修学年	1年(前期)				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	1単位・15時間	授業形態	講義・演習
授業の目標	<p>[授業の概要]</p> <p>日本における助産師教育の変遷、助産師教育のカリキュラムの変遷について学び、諸外国における助産師教育と比較検討し、これからの助産師教育について自らの考えを育み、助産師の生涯教育における課題について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における助産師教育の変遷について説明できる。</li> <li>2. 日本におけるカリキュラムの変遷について記述整理し説明できる。</li> <li>3. 日本におけるカリキュラムの変遷と社会の要請について presentation できる。</li> <li>4. 諸外国における助産師教育とその特徴について説明できる。</li> <li>5. 時代の変化、社会の要請に対応する助産師教育について自らの考えを述べられる。</li> </ol>				
授業回数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 日本における助産師教育の変遷【講義】				
第 2 回	・助産師教育の萌芽から確立へ				
第 3 回	・産婆教育から助産師教育へ				
第 4 回	2. 助産師教育のカリキュラムの変遷【演習】				
第 5 回	・課題①第1次改正と第2次改正について				
第 6 回	・課題②第3次改正と第4次改正について				
第 7 回	・課題②第4次改正と第6次改正について				
第 8 回	・討論「改正次のカリキュラムの特徴と今後の展望」				
	3. 諸外国における助産師教育とその特徴【講義・演習】				
	・国際助産師連盟(ICM)と助産師教育の世界基準				
	・ドイツ、オランダ、イギリス、アメリカ、ニュージーランドその他における助産師教育				
	4. 助産師の生涯教育【講義】				
	・時代の変化に、社会の要請に対応する助産師教育とは				
	・助産師のコア・コンピテンシーと教育・助産師のキャリア発達・開発と助産実践能力習熟段階				
学習評価の方法(成績割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢。知識や理論に基づいた presentation & discussion 20%、課題レポート 30%、授業修了時の小論文 50% とする。学修内容はループリック評価とする。単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて課題を提示し質向上を目指します。				
テキスト	助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院 その他参考書等、授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	助産教育論の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある教員	松村 恵子(助産師)				
備考	教員の連絡先:k.matsumura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母子家族論				
担 当 教 員	◎ 小笠原 百恵				
履 修 学 年	1年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1単位・15時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>母と子、父と子の関係を中心に、家族の形成プロセスを学び、現代の家族関係についての考えを深める。現在の母子を取り巻く環境や家族の多様性を理解し、母子を中心とした家族支援のあり方や課題について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母子関係、父子関係の形成について、説明することができる。</li> <li>2. 夫婦関係と子どもの発達について、説明することができる。</li> <li>3. 家族の機能と役割やその変化について、述べるができる。</li> <li>4. 現代の家族関係における多様なニーズを把握し、子どもとその家族への支援について述べるができる</li> </ol>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	家族の機能と役割、家族の発達課題（小笠原）【講義】				
第 2 回	母子関係の形成と課題、父子関係の形成と課題（小笠原）【講義】				
第 3 回	子どもの発達と親子の関係（小笠原）【講義】				
第 4 回	夫婦関係の形成と発達、夫婦関係と個人の病理（小笠原）【講義】				
第 5 回	母子関係の病理、父親のメンタルヘルスと家族へのリスク（小笠原）【講義】				
第 6 回	多様な家族関係ネットワーク、親子をめぐる現代的ネットワーク（小笠原）【講義】				
第 7 回	現代の母親、父親と社会、現代における家族の再編（小笠原）【講義】				
第 8 回	現代の子育て支援とその取り組み、日本社会の課題（小笠原）【講義】				
学習評価の方法 (成績割合%)	主体的に取り組む姿勢、討論の内容が知識や理論に基づいているかどうかをプレゼンテーションで評価する（40%）。授業終了時のレポート課題によって、総括的な評価を行う（60%）。				
テ キ ス ト	助産学講座4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学、医学書院 最新版 その他は、講義時に適宜提示する。				
履修上の留意点	現代社会の母子とそれを取り巻く家族の支援を考える授業です。新聞記事や雑誌、様々な図書などから情報収集を行い、現在の母子を取り巻く状況についての問題意識を高め、解決に向けた支援について考えを深めていきましょう。 オフィスアワーでは、研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある 教 員	小笠原 百恵（助産師）				
備 考	教員の連絡先：m.ogasawara@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母子保健行政論				
担 当 教 員	◎ 尾筋 淑子				
履 修 学 年	1年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講義・演習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>母子保健の歴史や、地域母子保健行政の体系、母子およびその家族の健康を増進する保健政策の現状課題の明確化、母子保健の動向と基礎整備について理解し今後の方向性について学修する。</p> <p>[学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母子保健の変遷が説明できる。</li> <li>2. 主要な母子保健指標の現状とその推移が説明できる。</li> <li>3. 母子およびその家族の健康を増進する保健施策の現状課題について記述でき説明できる。</li> </ol>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 母子保健の動向（尾筋）【講義】				
第 2 回	①母子保健の歴史 ②母子保健の動向と諸制度				
第 3 回	2. 母子保健の現状と動向（尾筋）【演習】				
第 4 回	①統計資料の分析				
第 5 回	3. ②母子保健をめぐる諸問題と課題				
第 6 回	4. 地域母子保健行政の体系（尾筋）【講義】				
第 7 回	①わが国の母子保健行政 ・母子保健行政の進展				
第 8 回	・母子保健関係法規 ・国・都道府県・市町村の役割				
第 9 回	5. ②わが国のおもな母子保健制度（尾筋）【講義】				
第 10 回	・母子保健制度の概要				
第 11 回	・健康診査 ・保健指導 ・療護支援 ・医療対策				
第 12 回	・予防接種 ・不妊に対する相談と治療費助成				
第 13 回	・ひとり親家庭の支援 ・職域における母子保健				
第 14 回	・女性保護				
第 15 回	6. わが国の母子保健施策（尾筋）【講義】				
第 16 回	①健康日本 21 と健やか親子 21				
第 17 回	7. ②少子化社会対策と次世代育成支援対策推進法（尾筋）【講義】				
第 18 回	8. 母子保健政策の現状と課題（尾筋）【演習】				
学習評価の方法 (成績割合%)	定期試験(80%)、主体的に課題に取り組む姿勢、討論の内容 プレゼンテーション(20%)				
テ キ ス ト	<p>助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院 最新版</p> <p>助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 最新版</p> <p>助産師基礎教育テキスト第1巻 助産学概論 日本看護協会出版会 最新版</p> <p>参考書 我が国の母子保健、母子保健の主なる統計、国民衛生の動向</p>				
履修上の留意点	<p>社会の母子保健の動向について関心のある資料を収集して授業に参加すること。</p> <p>母子保健の主なる統計、国民衛生の動向を活用し必要なデータを収集すること。</p> <p>オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がいなければいつでも対応します。</p>				
実務経験のある 教 員	尾筋 淑子（助産師）				
備 考	教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産診断・技術学特論 I (妊娠期)				
担 当 教 員	◎ 神谷 映里、松村 恵子、非常勤講師				
履 修 学 年	1 年 (前期)				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>妊娠期の母子および家族に必要なケアを提供するための、妊娠の生理、心理的特性等の基礎的な知識を学修する。妊娠期における正常からの逸脱徴候のアセスメント・合併症妊娠を含むハイリスク妊娠の診断・検査・治療（薬剤・手術）について学修する。また、胎児の健康状態把握に必要な超音波断層法の基礎的知識、分娩監視装置の基礎的なデータ判読について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠の定義、妊娠の早期診断、妊娠の維持について説明できる。</li> <li>2. 妊婦の身体的特徴・変化、心理的特徴が説明できる。</li> <li>3. 胎児の発育・健康状態について説明できる。</li> <li>4. 妊娠に関連した検査について説明できる。</li> <li>5. ハイリスク妊娠、妊娠の異常について説明できる。</li> </ol>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 助産過程、助産診断学、助産技術学の基盤及び概念と定義 (松村) 【講義】 助産診断学、助産技術学の理論構築				
第 2 回	2. 妊娠の定義、成立、妊娠の早期診断 (神谷) 【講義】 胎児の発育と胎児付属物				
第 3 回	3. 妊娠に伴う全身の変化とマイナートラブル (1) (神谷) 【講義】				
第 4 回	4. 妊娠に伴う全身の変化とマイナートラブル (2) (神谷) 【講義】				
第 5 回	5. 妊娠の日常生活におけるケア (神谷) 【講義】				
第 6 回	6. 妊娠の心理・社会的側面、妊娠経過に対応したケア (神谷) 【講義】				
第 7 回	7. 妊娠に関連した検査 (1) 検体検査 (神谷) 【講義】				
第 8 回	8. 妊娠に関連した検査 (2) 分娩監視装置、(神谷) 【講義】 胎児心拍モニタリング				
第 9 回	9. 妊娠に関連した検査 (3) 超音波検査の基礎 (神谷) 【講義】				
第 10 回	10. 妊娠に関連した検査 (4) 胎児超音波検査 (神谷) 【講義】				
第 11 回	11. 母子感染リスクのある妊婦への支援 (1) (神谷) 【講義】				
第 12 回	12. 母子感染リスクのある妊婦への支援 (2) (神谷) 【講義】				
第 13 回	13. 妊娠期の異常 妊娠疾患、妊娠持続期間異常、着床異常、胎児異常、胎児付属物の異常 (非常勤講師) 【講義】				
第 14 回	14. ハイリスク妊娠 偶発疾患合併症妊娠 (非常勤講師) 【講義】				
第 15 回	15. 周産期に用いる薬物 妊娠期に行われる産科手術 (非常勤講師) 【講義】				
学習評価の方法 (成績割合%)	課題 20%、定期試験 80%				
テ キ ス ト	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 医学書院 助産師基礎教育テキスト第 4 巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 目で見る妊娠と出産 馬場一憲 文光堂 その他 教材、参考書は授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	妊娠期の母子および家族に必要なケアを提供するための基礎的な科目です。助産診断・技術学演習Ⅰ(妊娠期)につながるので予習・復習をして理解していきましょう。質問等は研究室在室時、その場でまたは後日時間をとって対応いたします。				
実務経験のある教員	神谷 映里 (助産師)、松村 恵子 (助産師)、非常勤講師 (医師)				
備 考	教員の連絡先：e.kamiya@kki.ac.jp				

授業科目名	助産診断・技術学演習 I (妊娠期)				
担当教員	◎尾筋 淑子、神谷 映里、永峰 啓子				
履修学年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	2単位・60時間	授業形態	講義・演習
授業の目標	<p>[授業の概要]  妊娠経過における妊婦と胎児の健康状態、異常の早期発見と予防のための助産診断、助産過程の展開、妊婦健康診査の技術、正常経過を維持できるための日常生活への援助技術および個人・集団への健康教育を学修する。</p> <p>[学修目標]  1. 妊娠経過における妊婦と胎児の健康状態、異常の早期発見と予防のための助産診断、助産過程の展開を記述し説明できる。  2. 妊婦健康診査の技術、正常経過を維持できるための日常生活への援助技術が実施できる。  3. 個人・集団への健康教育の企画、実施、評価ができる。</p>				
第 1 回	1. 助産診断学の概要(尾筋)【講義】 ・診断の定義と意義 ・助産診断の範囲 ・助産診断類型 ・助産診断の分類 ・助産診断の過程 診断医に必要な能力 ・診断に関する問題点				
第 2 回	2. 妊娠期の助産診断(尾筋)【講義】 ・妊娠期の助産診断の特徴と診断類型				
第 3 回	3. 妊娠期の助産診断(尾筋)【講義】 ・妊娠期の助産診断の特徴と診断類型				
第 4 回	4. 妊娠期の助産診断(尾筋)【演習】 ・事例を用いて情報収集、アセスメント、助産診断、助産計画の立案を行う				
第 5 回	5. 妊娠期の助産診断(尾筋)【演習】 ・事例を用いて情報収集、アセスメント、助産診断、助産計画の立案を行う				
第 6 回	6. 妊娠期のフィジカルアセスメント(尾筋・永峰)【演習】 ・妊婦の定期健康診査に必要な技術(初期)				
第 7 回	7. 妊娠期のフィジカルアセスメント(尾筋・永峰)【演習】 ・妊婦の定期健康診査に必要な技術(中期)				
第 8 回	8. 妊娠期のフィジカルアセスメント(尾筋・永峰)【演習】 ・妊婦の定期健康診査に必要な技術(後期)				
第 9 回	9. ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦の支援(神谷)【講義】 ・ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦のケア				
第 10 回	10. ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦の支援(神谷)【講義】 ・ハイリスク妊娠・異常妊娠の妊婦のケア				
第 11 回	11. 周産期に用いられる検査法(神谷)【演習】 ①超音波診断 ・超音波の基本				
第 12 回	12. 周産期に用いられる検査法(神谷)【演習】 ②妊娠中・後期の超音波診断				
第 13 回	13. 相談・教育活動(尾筋)【講義】				
第 14 回	14. 健康教育の実際(尾筋)【演習】 ・事例への保健指導の計画 ・資料作成				
第 15 回	15. 健康教育の実際(尾筋)【演習】 ・事例への保健指導の計画 ・資料作成				
第 16 回	16. 健康教育の実際(尾筋・永峰)【演習】 ・模擬妊婦への保健指導				
第 17 回	17. 健康教育の実際(尾筋・永峰)【演習】 ・模擬妊婦への保健指導				
第 18 回	18. 健康教育の実際(尾筋)【講義】				
第 19 回	19. 集団指導(尾筋)【講義】				
第 20 回	20. 出産準備教育(尾筋)【演習】				

第 21 回	・両親学級の企画・計画 21. 出産準備教育（尾筋）【演習】
第 22 回	・両親学級の企画・計画 22. 出産準備教育（尾筋）【演習】
第 23 回	・両親学級の企画・計画 23. 出産準備教育（尾筋）【演習】
第 24 回	・両親学級の企画・計画 24. 出産準備教育（尾筋）【演習】 出産準備教育の企画とデモンストレーション
第 25 回	25. 出産準備教育（尾筋）【演習】 出産準備教育の企画とデモンストレーション
第 26 回	26. 出産準備教育（尾筋）【演習】 出産準備教育の企画とデモンストレーション
第 27 回	27. 出産準備教育（尾筋）【演習】 出産準備教育の企画とデモンストレーション
第 28 回	28. 妊娠期のフィジカルアセスメント（尾筋・永峰）【演習】 ・妊娠期の健康診査に必要な技術チェック
第 29 回	29. 妊娠期のフィジカルアセスメント（尾筋・永峰）【演習】 ・妊娠期の健康診査に必要な技術チェック
第 30 回	30. 妊娠期のフィジカルアセスメント（尾筋・永峰）【演習】 ・妊娠期の健康診査に必要な技術チェック
授 業 回 数	授 業 の 内 容
学習評価の方法 (成績割合%)	課題レポート 60%、プレゼンテーション 20%、実技試験 20%
テ キ ス ト	助産学講座 5、助産診断・技術学Ⅰ、医学書院 最新版 助産学講座 6、助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期、医学書院 最新版 青木康子、実践マタニティ診断、医学書院 最新版 進 純郎他、助産師外来の健診技術、医学書院 最新版 我部山キヨ子他、助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト第 4 巻、妊娠期の診断とケア、日本看護協会出版会 最新版 助産師基礎教育テキスト第 7 巻、ハイリスク妊産褥婦のケア、 日本看護協会出版会 最新版 参考書は授業の中で適宜提示する
履修上の留意点	演習Ⅰでは、妊娠期の助産過程を展開するため助産診断技術学特論Ⅰの学習内容を復習し、 学んだ知識がすぐに活用できるよう整理したうえで臨む。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。
実務経験のある 教 員	尾筋 淑子（助産師）、神谷 映里（助産師）、永峰 啓子（助産師）
備 考	教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp

授 業 科 目 名	助産診断・技術学特論Ⅱ(分娩期)				
担 当 教 員	◎尾筋 淑子、永峰 啓子、洪川 敏彦				
履 修 学 年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1単位・30時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]          分娩の機序、分娩の3要素、分娩による産婦や胎児へ及ぼす影響、分娩経過に応じた助産診断・助産ケアおよびローリスクからハイリスクへの予測と予防について学修する。</p> <p>[学修目標]          1. 分娩の機序、分娩の3要素、分娩による産婦や胎児へ及ぼす影響が記述し説明できる。          2. 分娩経過に応じた助産診断・助産ケアが記述し説明できる。          3. ローリスクからハイリスクへの予測と予防について記述し説明できる。</p>				
第 1 回	1. 分娩の生理(尾筋)【講義】 ・分娩に関する定義と種類 ・分娩の3要素 ・分娩が母体・胎児に及ぼす影響				
第 2 回	2. 分娩期の助産診断 ・分娩期の助産診断の特徴と診断類型 ・分娩時のフィジカルアセスメント				
第 3 回	3. 分娩期の助産診断(尾筋)【講義】 ・分娩期のフィジカルアセスメント				
第 4 回	4. 分娩期の心理・社会的変化(尾筋)【講義】				
第 5 回	5. 分娩介助法(永峰)【講義】 ・分娩介助の目標と準備 ・正常分娩介助法の実際				
第 6 回	6. 分娩介助法(永峰)【講義】 ・分娩体位による介助法 ・胎児付属物と計測				
第 7 回	7. 産婦への支援(永峰)【講義】 ・産婦への支援の基本				
第 8 回	8. 分娩経過に沿ったケア(永峰)【講義】 ・分娩進行に伴う観察・アセスメント ・時期ごとの特徴を踏まえたケア				
第 9 回	9. 分娩期の異常・偶発疾患(尾筋)【講義】 ・分娩の3要素の異常				
第 10 回	10. ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援(尾筋)【講義】 ・ハイリスク・異常分娩時のアセスメント ・ハイリスク・異常分娩時の産婦への支援				
第 11～15 回	11.～15. 分娩期の異常・偶発疾患(洪川)【講義】 ・分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症 産科手術および産科的医療処置 ・産科手術および産科的医療処置の各論 ・産科麻酔				
学習評価の方法 (成績割合%)	定期試験 80%、課題 20%				
テ キ ス ト	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会 最新版 助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、 日本看護協会出版会 最新版 参考書：進 純郎他、基本分娩介助学、医学書院 最新版 進 純郎、正常分娩の助産術、医学書院 最新版				
履修上の留意点	助産技術習得のために必要な知識であるため学習の積み重ねが重要。実習で活用するために自己学習ノートを作成する。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある教員	尾筋 淑子(助産師)、永峰 啓子(助産師)、洪川 敏彦(医師)				
備 考	教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp				



授 業 科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅱ(分娩期)				
担 当 教 員	◎尾筋 淑子、小笠原 百恵、永峰 啓子				
履 修 学 年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2単位・60時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]          分娩経過における産婦と胎児の健康状態、異常の早期発見と予防のための助産診断、助産過程の展開、分娩介助技術、出生直後の新生児に対するアセスメントとケアについて学修する。</p> <p>[学修目標]          1. 分娩経過、母子の健康状態に応じた助産診断、助産過程、異常の早期発見と予防について記述し説明できる。          2. 根拠に基づく分娩介助技術が実施できる。          3. 出生直後の新生児のアセスメント、ケアが説明できる。</p>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 分娩期の助産診断(尾筋)【演習】 ・事例を用いて、助産診断、助産計画の立案				
第 2 回	2. 分娩期の助産診断(尾筋)【演習】 ・事例を用いて、助産診断、助産計画の立案				
第 3 回	3. 分娩期の助産診断(尾筋)【演習】 ・事例を用いて、助産診断、助産計画の立案				
第 4 回	4. 分娩期の助産診断(尾筋)【演習】 ・パルトグラムの記載方法				
第 5 回	5. 出生後24時間以内の新生児のアセスメントとケア(小笠原)【講義】				
第 6 回	6. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】				
第 7 回	7. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】				
第 8 回	8. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】				
第 9 回	9. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】				
第 10 回	10. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】				
第 11 回	11. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】				
第 12 回	12. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】				
第 13 回	13. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】				
第 14 回	14. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】 ・間接介助法				
第 15 回	15. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】 ・間接介助法				
第 16 回	16. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】 ・内診技術				
第 17 回	17. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】 ・内診技術				
第 18 回	18. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】 ・分娩介助技術チェック				
第 19 回	19. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】 ・分娩介助技術チェック				
第 20 回	20. 分娩介助法(永峰・尾筋)【演習】				

第 21 回	・分娩介助技術チェック 21. ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援（尾筋）【講義】 ①ハイリスク・異常分娩時のアセスメント
第 22 回	22. ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援（尾筋）【講義】 ②ハイリスク・異常分娩時の産婦への支援
第 23 回	23. 救急処置（尾筋）【講義】 ・救急措置の実際
第 24 回	24. 救急措置（尾筋）【講義】 ・母体搬送における周産期医療連携
第 25 回	25. 新生児仮死と新生児蘇生法（NCPR）（尾筋）【講義】 ・新生児仮死の病態・評価方法・治療
第 26 回	26. 新生児の救急蘇生法（尾筋）【講義】 ・新生児蘇生の実際
第 27 回	27. 分娩介助法（永峰・尾筋）【演習】
第 28 回	28. 分娩介助法（永峰・尾筋）【演習】
第 29 回	29. 分娩介助法（永峰・尾筋）【演習】
第 30 回	30. 分娩介助法（永峰・尾筋）【演習】
学習評価の方法 (成績割合%)	定期試験 30%、実技試験 40%、課題レポート 30%
テキスト	助産学講座 7、助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト第 5 巻、分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会 最新版 助産師基礎教育テキスト第 7 巻、ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、 日本看護協会出版会 最新版 日本助産診断実践学会、実践マタニティ診断第 5 班、医学書院 進純郎他、分娩介助学、医学書院 最新版 進純郎他、正常分娩の助産術、医学書院 最新版 細野茂春 監修、日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト第 4 版、 メジカルビュー社 その他テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。
履修上の留意点	臨地実習で適用できる段階まで、分娩期の助産診断・助産過程の知識・技術を修得する。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。
実務経験のある 教員	尾筋 淑子（助産師）、小笠原 百恵（助産師）、永峰 啓子（助産師）
備考	教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp

授業科目名	助産診断・技術学特論Ⅲ(産褥期・育児支援)				
担当教員	◎尾筋 淑子、小笠原 百恵、永峰 啓子、森沢 猛				
履修学年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	2単位・30時間	授業形態	講義
授業の目標	<p>[授業の概要]          育児期の母子と家族に対して、産褥経過に伴う身体的回復の診断、褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦のセルフケア能力を高めるケアを提供するための知識、褥婦の育児に必要な基本的指導、新生児から乳児の発達についてのアセスメント、育児支援及び治療が必要な新生児のケア・診断・治療について学修する。</p> <p>[学修目標]          1. 産褥経過に伴う身体的回復の診断、褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦のセルフケア能力を高めるケアについて記述し説明できる。          2. 褥婦の育児に必要な基本的指導について記述し説明できる。          3. 新生児から乳児の発達についてのアセスメント、育児支援について記述し説明できる。          4. 治療が必要な新生児のケア・診断・治療について記述し説明できる。</p>				
授業回数	授 業 の 内 容				
第1回	1. 産褥期の生理(尾筋)【講義】				
第2回	2. 産褥期の助産診断(尾筋)【講義】				
第3回	3. 産褥期の助産診断(尾筋)【講義】				
第4回	4. 褥婦への支援(尾筋)【講義】				
第5回	5. 褥婦への支援(尾筋)【講義】				
第6回	6. 産褥期の異常・偶発疾患(尾筋)【講義】				
第7回	7. ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援(尾筋)【講義】				
第8回	8. ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援(尾筋)【講義】				
第9回	9. 新生児・乳幼児ケアの基本(小笠原)【講義】				
第10回	10. 新生児のアセスメントとケア(小笠原)【講義】				
第11回	11. 正常経過逸脱状態にある新生児の診断(小笠原)【講義】				
第12回	12. 早期新生児のアセスメントとケア(小笠原)【講義】				
第13回	13. 治療を受ける新生児のアセスメントとケア(永峰)【講義】				
第14回	14. 新生児の主な疾患とケア(森沢)【講義】				
第15回	15. 低出生体重児・早産児のケア(森沢)【講義】				
学習評価の方法(成績割合%)	定期試験 80%、課題 20%				
テキスト	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳児期、医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト 第7巻、ハイリスク妊産褥婦新生児のケア、日本看護協会出版会 最新版 その他、テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	助産技術習得のために必要な知識であるため学習の積み重ねが重要。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある教員	尾筋 淑子(助産師)、小笠原 百恵(助産師)、永峰 啓子(助産師) 森沢 猛(医師)				
備考	教員の連絡先：y.osuji @kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅲ(産褥期・育児支援)				
担 当 教 員	◎尾筋 淑子、永峰 啓子、渡辺 和香、谷川 裕子				
履 修 学 年	1年(通年)				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2単位・60時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>産褥期、新生児期における身体的、心理的、社会的側面からの健康状態、異常の早期発見と予防、退行性変化の促進、母乳育児への支援、日常生活への支援、家庭・社会復帰の支援など根拠を踏まえた助産ケアを提供するための基本的技術および新生児の胎外生活への適応を促進するための適切なケアを学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥期、新生児期における身体的、心理的、社会的側面からの健康状態、異常の早期発見と予防について記述し実施できる。</li> <li>2. 退行性変化の促進、母乳育児への支援、日常生活への支援について記述し実施できる。</li> <li>3. 家庭・社会復帰への支援について記述し説明できる。</li> <li>4. 新生児のフィジカルイグザミネーションを実施し、適応を促進するケアが実施できる。</li> </ol>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 産褥期・新生児期の助産診断(尾筋)【演習】 ・事例を用いて助産診断、助産計画を行う				
第 2 回	2. 産褥期・新生児期の助産診断(尾筋)【演習】 ・事例を用いて助産診断、助産計画を行う				
第 3 回	3. 産褥期・新生児期の助産診断(尾筋)【演習】 ・事例を用いて助産診断、助産計画を行う				
第 4 回	4. 産褥期・新生児期の助産診断(尾筋)【演習】 ・事例を用いて助産診断、助産計画を行う				
第 5 回	5. 産褥期のフィジカルアセスメント(尾筋・永峰)【演習】 ・褥婦の健康診査に必要な技術				
第 6 回	6. 産褥期のフィジカルアセスメント(尾筋・永峰)【演習】 ・褥婦の健康診査に必要な技術(技術チェック)				
第 7 回	7. 新生児のフィジカルイグザミネーション(永峰・尾筋)【演習】				
第 8 回	8. 新生児のフィジカルイグザミネーション(永峰・尾筋)【演習】 ・呼吸・循環・体温の観察とアセスメント技術チェック				
第 9 回	9. 褥婦への支援(尾筋・永峰)【演習】 ①育児行動獲得への支援 ・抱き方・おむつ交換・衣服の着脱・沐浴				
第 10 回	10. 褥婦への支援(尾筋・永峰)【演習】 ①育児行動獲得への支援 ・抱き方・おむつ交換・衣服の着脱・沐浴の技術チェック				
第 11 回	11. 褥婦への支援(尾筋)【演習】 ・退院指導計画、指導案作成、資料作成				
第 12 回	12. 褥婦への支援(尾筋)【演習】 ・退院指導計画、指導案作成、資料作成				
第 13 回	13. 褥婦への支援(尾筋・永峰)【演習】 ・退院指導の実施、評価				
第 14~20 回	14. ~ 20. (渡邊)【講義・演習】 母乳育児支援に関する妊娠中からの適切な授乳技術 乳房管理と乳房トラブルへの援助の実際 母乳哺育の継続支援				

<p>第 21 回 第 22～23 回 第 24 回 第 25～29 回</p>	<p>育児不安をもつ母親への支援 卒乳・断乳への援助</p> <p>21. タッチケア：ベビーマッサージ（尾筋）【演習】</p> <p>22～23. 乳幼児のアセスメントとケア（谷川）【講義・演習】 ・身体成長・発達の評価と支援 ・乳幼児健康診査</p> <p>24. 家庭・社会復帰への支援（尾筋）【演習】 ・施設演習の計画</p> <p>25～29. 家庭・社会復帰への支援（渡邊）【施設演習】</p> <p>30. 家庭・社会復帰への支援（尾筋）【演習】 ・施設演習のプレゼンテーション</p>
<p>学習評価の方法 (成績割合%)</p>	<p>課題レポート 60%、実技試験 20%、プレゼンテーション 20%</p>
<p>テキスト</p>	<p>助産師基礎教育テキスト第 6 巻、産褥期のケア 新生児期・乳児期のケア、 日本看護協会出版会 最新版</p> <p>助産学講座 7、助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 最新版</p> <p>助産学講座 8、助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期、医学書院 最新版</p> <p>その他テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。</p>
<p>履修上の留意点</p>	<p>臨地実習で適用できる段階まで、分娩期の助産診断・助産過程の知識・技術を修得する。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。</p>
<p>実務経験のある 教員</p>	<p>尾筋 淑子（助産師）、永峰 啓子（助産師）、渡辺 和香（助産師）、 谷川 裕子（助産師）</p>
<p>備考</p>	<p>教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp</p>

授 業 科 目 名	地域母子保健				
担 当 教 員	◎ 松村 恵子、伊木 智子、淵元 純子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習
授 業 の 目 標	<p>[ 授業の概要 ]</p> <p>地域母子保健の意義、地域概念、地域母子保健活動の基盤となる理論について学び、地域母子保健福祉行政と母子保健統計の動向、諸外国と日本の地域母子保健の分析、地域における子育て世代の包括的支援と助産師の役割について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域母子保健活動の基盤となる概念・理論について説明できる。</li> <li>2. 地域母子保健福祉行政について記述整理し説明できる。</li> <li>3. 諸外国と日本の地域母子保健について記述整理し presentation できる。</li> <li>4. 地域母子保健活動における助産師の役割について説明できる。</li> <li>5. 地域における子育て世代包括支援・母子健康包括支援について説明できる。</li> </ol>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 地域母子保健活動の意義（松村）【講義】				
第 2 回	・地域概念・母子保健概念・母子の健康に関わる因子				
第 3 回	2. 母子保健の現状と保健統計の動向と課題（松村）【講義】				
第 4 回	3. 地域母子保健活動の基盤（淵元）【講義】				
第 5 回	・関係機関との連携・地域母子保健ニーズの把握と施策				
第 6 回	4. 地域母子保健活動の展開（淵元）【講義】				
第 7 回	・女性のライフサイクルへの支援・活動展開の場と特徴				
第 8 回	5. 地域母子保健活動における理論と実際（淵元）【講義・演習】				
第 9 回	・妊産婦訪問指導・新生児訪問指導・褥婦訪問指導				
第 10 回	6. 地域組織活動・子育て支援活動・地域相談活動（淵元）【講義】				
第 11 回	7. 地域で働く行政の助産師の産後ケアの展開（淵元）【講義】				
第 12 回	8. 母子保健活動展開のための多職種間の連携（淵元）【講義】				
第 13 回	9. 母子保健活動における連携と協働（伊木）【講義】				
第 14 回	・市町村のおもな母子保健福祉業務の実際（伊木）【講義】				
第 15 回	10. 子育て世代包括支援・母子健康包括支援（伊木）【講義】				
	11. 母子保健行政・母子保健サービスの実際（伊木）【講義】				
	12. 乳幼児健診の実際・4か月健康診査（伊木）【講義・演習】				
	13. 日本における地域母子保健の現状と課題（松村）【演習】				
	14. 諸外国と日本の地域母子保健の分析（松村）【演習】				
	15. 地域母子保健に関する学修成果の presentation（松村）【演習】				
学習評価の方法 (成績割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢。知識や理論に基づいた presentation & discussion 30%、授業修了時の学修成果に基づく小論文 70%とする。学修内容はルーブリック評価とする。単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて課題を提示し質向上を目指します。				
テ キ ス ト	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健 助産学講座 医学書院 最新版 その他参考書等、授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	地域母子保健の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある 教 員	松村 恵子（助産師）、伊木 智子（保健師）、淵元 純子（助産師）				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産管理				
担 当 教 員	◎ 松村恵子、松尾真璃、真鍋由紀子、岡本ゆり、渋川あゆみ、谷川裕子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習
授 業 の 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>助産管理の基本と助産業務管理の方法、関係法規と助産師の義務と責任、周産期における医療の質と安全、災害対策、助産所・診療所・病院における助産業務管理と運営、日本の周産期医療におけるシステム体制整備と助産師の役割について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産管理と助産業務管理について記述整理し説明できる。</li> <li>2. 助産管理における関係法規と助産師の義務と責任について記述整理できる。</li> <li>3. 周産期における医療の質と安全、災害対策、システムの整備について説明できる。</li> <li>4. 助産所、診療所、病院における助産業務管理と運営について説明できる。</li> </ol>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 回	1. 助産管理の基本と助産業務管理（松村）【講義】				
第 2 回	・助産管理と助産業務管理 ・組織の目標管理と実践プロセス				
第 3 回	2. 助産業務管理の方法（松村）【講義・演習】				
	・組織、書類、財務、業務の質管理 ・多職種、地域との連携				
第 4 回	3. 関係法規と助産師の義務と責任（松村）【講義】				
	・関係法規<医療法、保助看法、医薬品や医療機器等の品質と有効性及び安全性の確保等に関する法律、戸籍法、刑法等>				
第 5 回	・助産師の法的責任と義務（松村）【講義・演習】				
第 6 回	4. 周産期における医療の質と安全（松村）【講義・演習】				
第 7 回	・周産期医療体制、ネットワーク・周産期医療システム				
第 8 回	5. 助産に関する医療安全と危機管理（松村）【講義・演習】				
第 9 回	・周産期棟と混合病棟、助産師外来と院内助産における管理				
第 10 回	6. 助産所における東洋医学の助産ケア（松尾）【講義・演習】				
第 11 回	7. 東洋医学の意義と助産実践における効用（松尾）【講義】				
第 12 回	8. 助産所における助産業務管理（真鍋）【講義】				
第 13 回	9. 助産所での管理と運営、管理に関する法規（真鍋）【講義】				
第 14 回	10. 病院における助産業務管理（岡本）【講義】				
第 15 回	11. 病院における管理と運営、管理に関する法規（岡本）【講義】				
	12. 診療所における助産業務管理（渋川）【講義】				
	13. 診療所の管理と運営、管理に関する法規（渋川）【講義】				
	14. 助産師が行う医療安全と災害対策（谷川）【講義・演習】				
	15. 災害対策、妊産褥婦と新生児と家族の管理（谷川）【講義】				
学習評価の方法 (成績割合%)	主体的に課題に取り組む姿勢。知識や理論に基づいた presentation & discussion 20%、課題レポート 10%、授業修了時の小論文 70% とする。学修内容はルーブリック評価とする。単元毎に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて課題を提示し質向上を目指します。				
テ キ ス ト	助産師基礎教育第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会最新版 助産学講座 10 助産管理 医学書院 最新版 その他参考書等、授業の中で適宜提示する。				
履修上の留意点	助産管理の授業内容に関する学修理解に基づいて探究心を育て、深い視座から分析した課題発見と、学修目標達成を目指す主体的な研究的姿勢を育てましょう。 オフィスアワーでは研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。				
実務経験のある 教 員	松村 恵子（助産師）、松尾 真璃（助産師）、真鍋 由紀子（助産師） 岡本 ゆり（助産師）、渋川 あゆみ（助産師）、谷川 裕子（助産師）				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				

授業科目名	助産学実習				
担当教員	◎松村 恵子、尾筋 淑子、神谷 映里、小笠原 百恵、永峰 啓子				
履修学年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単位数・時間	11単位：495時間	授業形態	実習
授業の目標	<p>[授業の概要] 分娩開始となった事例を受け持ち、妊娠期・分娩期の助産診断を行い分娩進行に応じて適切な助産技法を活用し支援方法を修得する。母子ともに安全でかつ女性とその家族が納得いく出産体験となり、女性の自然の力を最大限に発揮できるような助産ケアを修得する。継続事例は妊娠期から育児期まで助産診断と助産ケアの実施を行い支援方法を修得する。</p> <p>[学修目標] 1. 妊娠期・分娩期の助産診断を行い、分娩進行に応じた適切な助産技法を活用できる。 2. 母子ともに安全で、女性とその家族が納得いく出産体験となる助産ケアを実施できる。 3. 継続事例の妊娠期から育児期までの助産診断を行い、助産ケアを実施できる。</p>				
授業回数	授 業 の 内 容				
	<p>1. 継続事例は分娩介助実習期間に出産予定の初産婦または経産婦1～2例を妊娠期から分娩期・産褥期・児が生後4か月近くに至るまで通して受け持つ。周産期から子育て早期の期間を母子とその家族と良好な関係を築きながら受持ち事例に合わせて、1か月健診や家庭訪問（褥婦・新生児訪問、乳児訪問）を実施し支援の実際を修得する。</p> <p>2. 分娩介助事例は、正常な経過をたどる分娩第1期の産婦を受け持ち、経陰分娩の分娩介助、退院するまでの早期産褥期の母子とその家族に必要な支援を修得する。</p> <p>3. 実習期間 ・継続事例：2023年12月 ～ 2024年6月 ・分娩介助実習：2023年12月 ～ 2024年3月</p> <p>*実習施設は分娩介助の例数により変更することがある。 *必要時、分娩介助実習前に「事前実習」を導入する。 *その他の事項および実習の詳細については、別途配布する「2023年度助産学実習要項」による。 *経陰分娩介助は10例以上とする。</p>				
学習評価の方法 (成績割合%)	臨地実習の実践・目標の到達度（70%）、実習記録（20%）、実習レポート（10%）				
テキスト	助産診断・技術学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、助産診断・技術学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび分娩介助法の実技試験が合格していること。 テキスト、参考書は適時紹介する。妊娠、分娩、産褥期・新生児期の産褥期に使用した資料、自己学習ノートを活用する。				
履修上の留意点	実習期間が長期にわたるため自己の健康管理に留意して実習に臨む。 施設によって継続事例の妊婦健診や家庭訪問は教員とともに行う。 継続事例の分娩介助実習は24時間体制をとる場合がある。				
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、神谷 映里（助産師） 小笠原 百恵（助産師）、永峰 啓子（助産師）				
備考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				



授 業 科 目 名	助産管理実習				
担 当 教 員	◎松村恵子、尾筋淑子、永峰啓子				
履 修 学 年	2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単 位・45 時 間	授 業 形 態	実習
授 業 の 目 標	<p>【授業の概要】</p> <p>助産管理と助産業務管理の実際について、助産院で行われている妊婦健康診査、出産、出産介助、助産ケア、産後の生活や新生児訪問、母乳育児支援、出産準備教室、産後ケアなど、助産院の特徴と母子とその家族の支援、病院との連携、地域との連携と協働、母子の安全システムの実際、助産に関する医療安全と危機管理について学修する。この学修から助産管理・助産業務管理に関する基礎的能力を修得する。</p> <p>【学修目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産管理の基本と助産業務管理の過程の事前学修を深め学修成果を記述できる。</li> <li>2. 周産期医療体制と地域連携について事前学修を深め学修成果を記述できる。</li> <li>3. 助産に関する医療安全と危機管理について事前学修を深め学修成果を記述できる。</li> <li>4. 助産院における助産管理・助産業務管理の実際を記述整理し説明できる。</li> <li>5. 助産院における安全・安心・安楽な出産環境システムの実際について記述できる。</li> <li>6. 助産院における助産管理・助産業務管理の実際について、最も関心を深めた現象に焦点を当て分析し目指す助産師像について、自らの考えを具体的に説明できる。</li> <li>7. 実習目的に照合し実習目標(1～6)の達成度を自己評価と課題を説明できる。</li> </ol>				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 ～ 23 回	<p>【助産所における臨地実習の概要】</p> <p>助産所における助産管理、助産業務管理の実際に参加して観察し、助産学生として実践可能な助産業務に指導者の監督の下で実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産管理の基本と助産業務管理ならびに周産期医療体制と地域連携</li> <li>・助産院で行われている助産管理・助産業務管理の特性と実際</li> <li>・母子の安全システムの実際、緊急時の対応等、医療安全と危機管理</li> <li>・助産院における安全・安心・安楽な出産環境を提供するシステムの実際</li> <li>・助産院における多職種や地域との連携・協働、退院後の継続ケアの実際</li> <li>・妊婦健康診査と助産ケア、健康教育・健康学習(出産準備や子育て等)の実際</li> <li>・分娩各期における助産ケアの実際を綿密に観察し助産診断と助産計画立案</li> <li>・母児の産褥期の生活や新生児のケア、母乳育児支援、母子と家族への支援</li> <li>・助産院で出産した母と子と家族に起こっている現象の観察と分析</li> <li>・助産ガイドラインに基づく母子の安全システムの実際</li> </ul>				
学習評価の方法 (成績割合%)	主体的に実習に取り組む姿勢。実習が知識や理論に基づいているかどうか毎日の実習における言動等の状況、実習目的・目標の到達度80%、カンファレンスでのpresentation20%とする。学修内容は基準に基づいた実習評価とする。適宜、学修内容をフィールドバックし課題を提示して質向上を目指します。				
テ キ ス ト	助産師基礎教育第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会最新版 助産学講座10 助産管理 医学書院 最新版 その他参考図書等、適宜提示する。				
履修上の留意点	助産管理実習の目的・目標の達成を目指して学修し、助産管理・助産業務管理について探究心を育て主体的に取り組む研究的姿勢を育てましょう。オフィスアワーの時間は、臨地において設定し相談等に対応します。				
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、永峰 啓子（助産師）				
備 考	教員の連絡先：k.matsumura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	看護学特別研究				
担 当 教 員	◎江川隆子、小平京子、奥津文子、松村恵子、神谷千鶴、笠岡和子、下舞紀美代 箕浦洋子、伊木智子、古川秀敏、大谷益子				
履 修 学 年	1・2年通年				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	6 単 位・180 時 間	授 業 形 態	講 義
授 業 の 目 標	学生が選択した看護分野の研究課題を明らかにし、研究領域の文献レビュー、研究テーマの選択、研究目的、研究概念枠組みの明確化、研究方法の選択を行い研究計画を立案する。さらにその研究計画に沿ってデータ収集、結果の分析、考察を行う。この一連の研究プロセスに基づき修士論文を作成する。				
授 業 回 数	授 業 の 内 容				
第 1 ～ 9 0 回	1. 研究計画書の作成 1) 研究課題の明確化 2) 文献レビュー 3) 研究意義の明確化 4) 研究方法の選択 5) データ分析方法の決定 6) 研究計画の中間発表 2. 研究倫理委員会申請書の作成と倫理審査受審 3. 研究計画に基づく研究の実施 データ収集 データ分析 分析結果の考察 4. 論文作成 5. 発表				
学習評価の方法 (成績割合%)	審査基準に基づき、審査によって決定する。				
テ キ ス ト					
履修上の留意点	研究活動はグループ討議および個人面接により進める。 研究計画書および修士論文提出にあたっては、大学が指定する作成手順に則り必要な手続きや提出期限を厳守すること。				
実務経験のある教員	江川 隆子、小平 京子、奥津 文子、神谷 千鶴、笠岡 和子、下舞 紀美代 箕浦 洋子 (以上看護師) 松村 恵子 (助産師)、伊木 智子、古川 秀敏 (以上保健師)、大谷 益子 (体育学)				
備 考	参考文献は別途提示する。				

